

平成27年度
環境問題に関する県民意識アンケート

報告書（詳細版）

平成27年10月

群馬県

目 次

県民に対するアンケート調査

1 調査の概要	1
1.1 調査の目的.....	1
1.2 調査の方法.....	1
1.3 回収状況.....	2
1.4 調査項目概要.....	3
2 回答者属性	4
3 調査結果	6
3.1 調査項目別要旨.....	6
3.2 環境問題に対する関心.....	7
3.2.1 社会問題についての関心度.....	7
3.2.2 環境問題についての関心度.....	11
3.3 身のまわりの環境.....	23
3.3.1 身のまわりの環境の満足度.....	23
3.3.2 身のまわりの生活環境全般の満足度.....	32
3.3.3 身のまわりの環境の5、6年前との変化.....	34
3.3.4 5、6年前と比較した意識・行動の変化.....	36
3.3.5 快適環境確保のために県に求められる取組.....	42
3.4 環境問題に関する情報源.....	51
3.4.1 環境問題に関する情報源.....	51
3.4.2 群馬県の発信する環境情報をどこから得ているか.....	52
3.4.3 今後、環境に関するどのような情報を知りたいか.....	54
3.5 取組.....	55
3.5.1 環境保全のための現在の取組状況と今後の取組意向.....	55
3.6 地球温暖化防止.....	74
3.6.1 地球温暖化防止のための現在の取組状況と今後の取組意向.....	74
3.6.2 地球温暖化防止のために県に求められる取組.....	89

3.7 生物多様性の保全	91
3.7.1 身のまわりの自然環境の5、6年前との変化.....	91
3.7.2 身のまわりの植物や動物の5、6年前との変化.....	93
3.7.3 「自然環境」を保全する活動への参加.....	95
3.7.4 「生物多様性」の認知度.....	97
3.7.5 「生物多様性」の危機と人間活動との関係の認知度.....	99
3.7.6 「生物多様性」の保持のための取組の支持.....	101

事業所に対するアンケート調査

1 調査の概要	103
1.1 調査の目的	103
1.2 調査の方法	103
1.3 回収状況	103
1.4 調査項目概要	104
2 回答者属性	105
3 調査結果	107
3.1 調査項目別要旨	107
3.2 取組	109
3.2.1 環境保全に対する取組	109
3.2.2 その他の取組	134
3.3 環境保全のための体制	151
3.3.1 環境保全担当部署の設置	151
3.3.2 環境方針や環境保全ガイドラインの策定	154
3.3.3 取引先からの環境に関する取組の要求	156
3.3.4 環境保全に関する社員教育	157
3.3.5 環境保全活動の経費の増減状況	158
3.3.6 環境保全活動を実施して得られているメリット	159
3.3.7 実施している環境保全活動に関して消費者等にPRしたいこと	160
3.3.8 環境保全活動に関する社外団体や地域社会への協力	162
3.4 環境保全に対する考え方	164
3.4.1 環境保全に対する企業の役割	164

添付資料

アンケート調査票

- 県民用アンケート調査票
- 事業所用アンケート調査票

県民に対するアンケート調査

1. 調査の概要

1.1 調査の目的

平成18年3月に策定された「群馬県環境基本計画 2006-2015」の、県民・事業所を対象にしたフォローアップ調査として、県民・事業所の環境保全に対する意識や取組状況を把握するとともに、過去からの経年推移を踏まえて、今後の環境施策実施に活用することを目的として実施した。

このうち、本編は、県民に対するアンケート調査のまとめである。

1.2 調査の方法

(1) 調査対象

群馬県内在住の満20歳以上の男女 2,000人

(2) サンプルング方法

多段階無作為抽出法（抽出台帳は住民基本台帳）

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収（督促状送付1回）

(4) 調査期間

平成27年7月14日～7月27日

1.3 回収状況

有効回収数：1,057（回収率：52.9%）

圏域名	市町村	有効回収数	回収率
1. 前橋圏	前橋市	165	50.9%
2. 渋川圏	渋川市、榛東村、吉岡町	55	47.4%
3. 伊勢崎圏	伊勢崎市、玉村町	103	45.2%
4. 高崎・安中圏	高崎市、安中市	234	56.0%
5. 藤岡圏	藤岡市、上野村、神流町	53	58.9%
6. 富岡圏	富岡市、下仁田町、甘楽町、南牧村	35	39.8%
7. 吾妻圏	中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町	37	45.1%
8. 利根・沼田圏	沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町	54	50.0%
9. 太田・館林圏	太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町	191	50.3%
10. 桐生圏	桐生市、みどり市	71	42.8%
	無回答	59	5.6%
	合計	1,057	52.9%

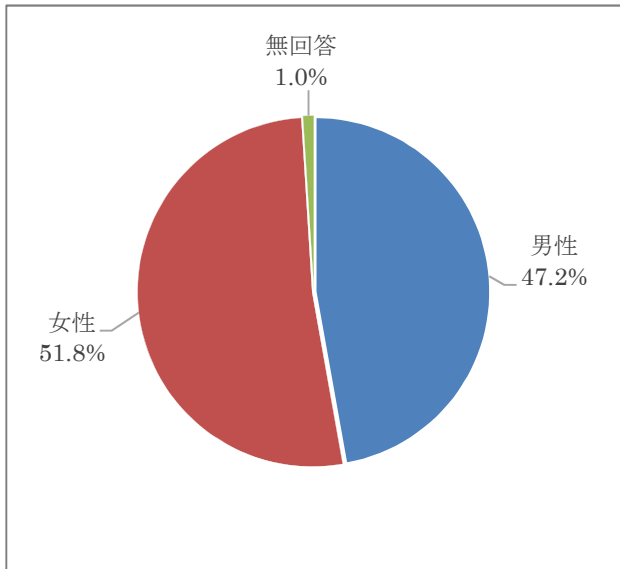
1.4 調査項目概要

質問項目	ねらい
【環境問題に対する関心】	
問1 (1)社会問題についての関心度 (2)環境問題についての関心度	・ 県民の社会・環境問題に対する関心度を把握する。
【身のまわりの環境】	
問2 (1)身のまわりの環境の満足度 (2)生活環境全般の満足度	・ 身のまわりの環境・生活環境全般の満足度を把握。
問3 5、6年前との比較 (1)身のまわりの環境 (2)意識・行動	・ 身のまわりの環境について経年変化を比較・検討する。
問4 県に求められる取組	・ 快適で住みよい環境を確保するための取組を把握する。
【環境問題に関する情報源】	
問5 環境問題に関する情報源	・ 利用されやすい情報源を把握し、県が情報提供を行う際の参考とする。
問6 県の環境情報をどこから得ているか	・ 県の環境情報をより利用しやすいものにするための検討材料として活用する。
問7 今後知りたい情報	・ 県が行う情報提供内容の検討材料として活用する。
【取組】	
問8 環境保全に対する取組	・ 県民レベルでの取組状況と経年推移を把握し、支援策などの検討材料とする。
【地球温暖化防止】	
問9 地球温暖化防止のための心がけ	・ 県民レベルでの地球温暖化防止策の取組状況と、今後の意向を把握する。
問10 県に求められる取組	・ 県に求められる重点施策への要望を把握する。
【生物多様性の保全】	
問11 (1)自然環境の変化 (2)植物や動物の変化 (3)活動への参加 (4)生物多様性の認知度 (5)人間活動との関係との認知度 (6)保持のための取組の支持	・ 自然環境の経年変化に対する意識を確認する。 ・ 自然環境を保全する活動への参加度を確認する。 ・ 生物多様性の認知度を確認する。 ・ 生物多様性の危機と人間関係との関係の認知度を確認する。 ・ 生物多様性の保全の取組を確認する。
【属性】 性別、年齢、職業、圏域、地域の状況、居住期間、出身都道府県	

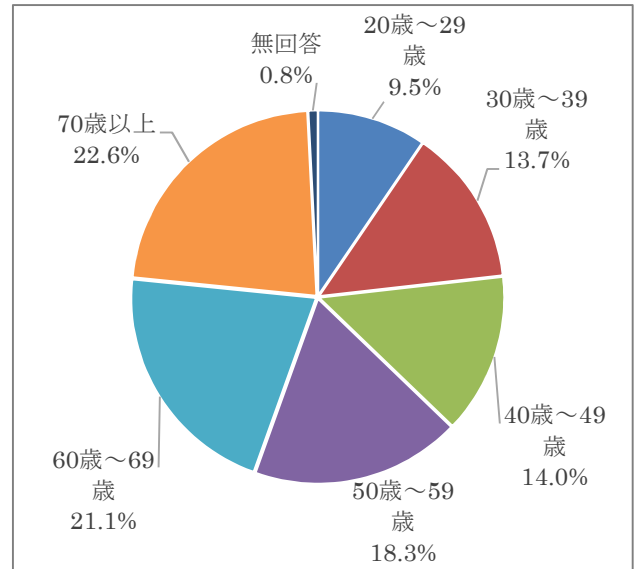
※ 経年変化による比較は、平成6、12、17年度と行い、平成18年度以降に追加された設問については、その年度との比較を行う。

2. 回答者属性

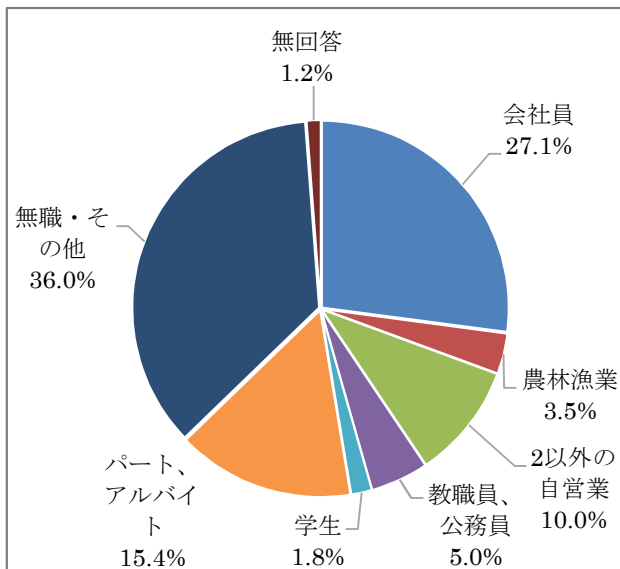
(1) 性別



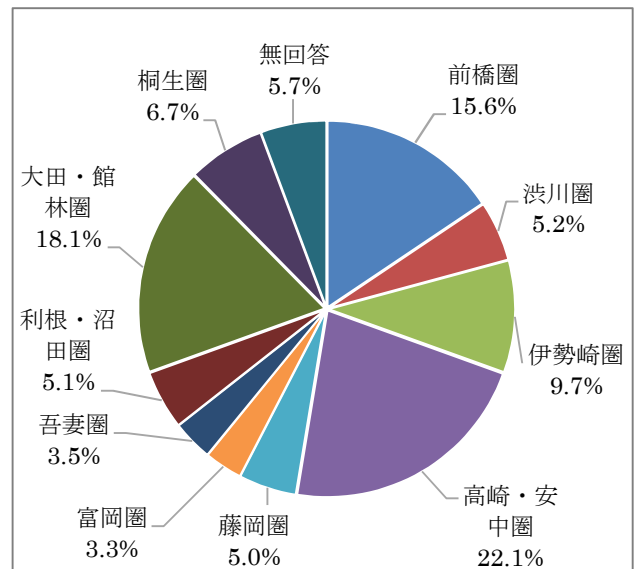
(2) 年齢



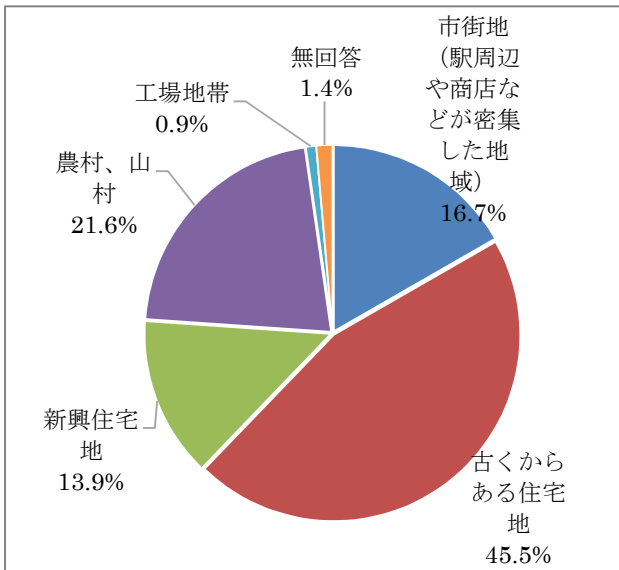
(3) 職業



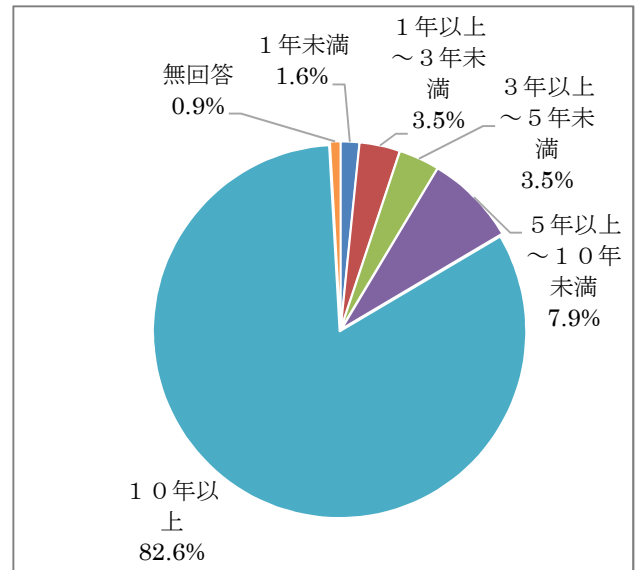
(4) 圏域



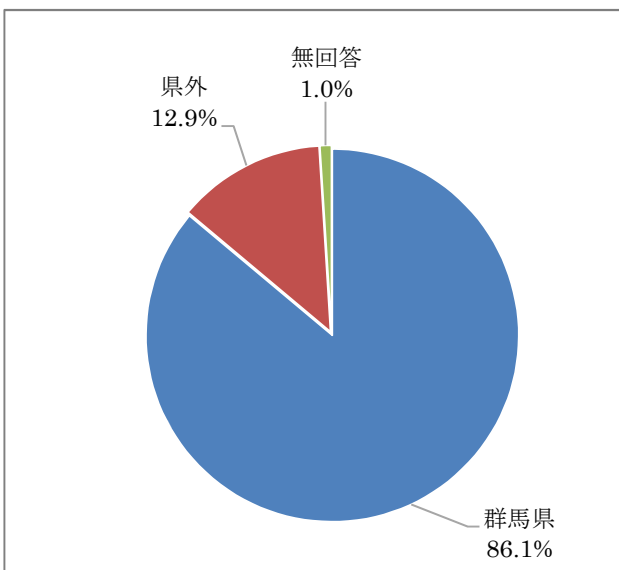
(5) 地域の状況



(6) 居住期間



(7) 出身都道府県



3. 調査結果

3.1 調査項目別要旨

I 環境問題に対する関心

- 様々な社会問題の中で非常に関心が高いのは、「福祉に関する問題（43.3%）」「災害に関する問題（38.8%）」「地域の生活環境に関する問題（29.8%）」。
- 様々な環境問題の中で非常に関心が高いのは、「不法投棄や廃家電などのゴミ処理やリサイクル（92.3%）」「二酸化炭素などによる地球温暖化（91.8%）」「放射性物質による環境汚染（90.9%）」。

II 身のまわりの環境

- 満足度が高いのは、「日あたり（77.3%）」「緑の豊かさ（70.5%）」「空気のさわやかさ（68.0%）」。
→ 逆に、満足度が低いのは、「歴史的・文化的雰囲気（50.5%）」「街並みの美しさ（51.2%）」「水や水辺とのふれあい（52.6%）」。
- 生活環境全般については、約7割が「満足（72.3%）」。
- 5、6年前と比べて、約3割弱が身のまわりの環境が「良くなった（27.2%）」。
→ 逆に約2割が「悪くなった（23.3%）」、約4割が「変化していない（44.2%）」。
- 5、6年前と比べて、約6割が「環境への関心が深まった（63.9%）」。
また、約6割弱が「実践するようになった（56.0%）」。
→ 関心が深まるほど、環境を考えての行動を実践。
- 県に求められる取組は、「水道水のおいしさ（85.4%）」「河川や湖沼のきれいさ（83.4%）」「住まいのまわりの清潔さ（80.8%）」。

III 環境問題に関する情報源

- 環境問題に関する1番の情報源は、「新聞やテレビ（86.5%）」。
→ 「インターネット（27.9%）」の割合も年々、増加。
- 群馬県の発信する環境に関する情報源は、「市町村の広報誌（53.3%）」。
→ 「県の広報誌（45.6%）」「群馬テレビの県政ガイド（24.3%）」も、前回調査から大幅に増加。
- 今後、知りたいと思う環境情報は、「身近な環境問題（67.9%）」「行政が取り組んでいる、環境に対する施策や取組（52.0%）」「普段の生活の中で、自分のできる環境保全の方法（43.5%）」。

IV 取組

- 環境保全のために実行されている取組は、「資源ゴミは分別してリサイクルに出している (95.1%)」「電気・ガス・水道等の節約に努めている (93.2%)」「破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている (85.3%)」。
- 環境保全に対する取組意欲は高い。
 - 「電気・ガス・水道等の節約に努めている (91.2%)」「資源ゴミは分別してリサイクルに出している (91.1%)」「廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている (83.8%)」「破損しても修理して使うなど、物を長く使用するように努めている (80.2%)」の合わせて4項目で、8割以上が「今後も (今後は) 行っていきたい」と回答。

VI 地球温暖化防止

- 地球温暖化防止のため実行されている取組は、「冷暖房を控えめにする (90.0%)」「水やお湯を出しっぱなしにしないように努める (89.6%)」「節電や待機電力を削減するなどに努める (87.7%)」。
- 今後も (今後は) 行っていきたい取組は、「水やお湯を出しっぱなしにしないように努める (86.9%)」「冷暖房を控えめにする (84.8%)」「節電や待機電力を削減するなどに努める (84.7%)」。
- 県に求められる取組は、「森林の適切な管理・利用や緑化対策の推進 (79.2%)」「燃費効率のよい自動車やハイブリッド車、天然ガス車、電気自動車など低公害車の普及促進 (78.3%)」「太陽光発電・風力発電・太陽熱利用のような新エネルギーの普及促進 (78.0%)」「自転車の利用促進のため、駅前などの駐輪場の整備や自転車道・歩道の整備促進 (78.0%)」。

VII 生物多様性の保全

- 約7割弱が、身近な自然環境が「少なくなった (65.6%)」と感じている。
- 約6割が、身近な植物や動物の種類が「変わってきた (62.7%)」と感じている。
- 約2割弱が、【自然環境】を保全する活動に「参加したことがある (17.2%)」。
 - 約3割弱が、「参加したことはなく、今後も参加したくない (28.6%)」。
- 約1割が、【生物多様性】という言葉を知っている (13.7%)。
 - 【生物多様性】の危機について、周知する必要がある。
- 約6割強が、【生物多様性】について「よくは知らないが、今後知りたいと思う (65.2%)」。
 - 約8割強が、【生物多様性】に関心がある。
- 約6割弱が、【生物多様性】の取組は「生活の便利さが制限されない程度に、生物が生息等できる環境の保全を進める (58.4%)」と感じている。

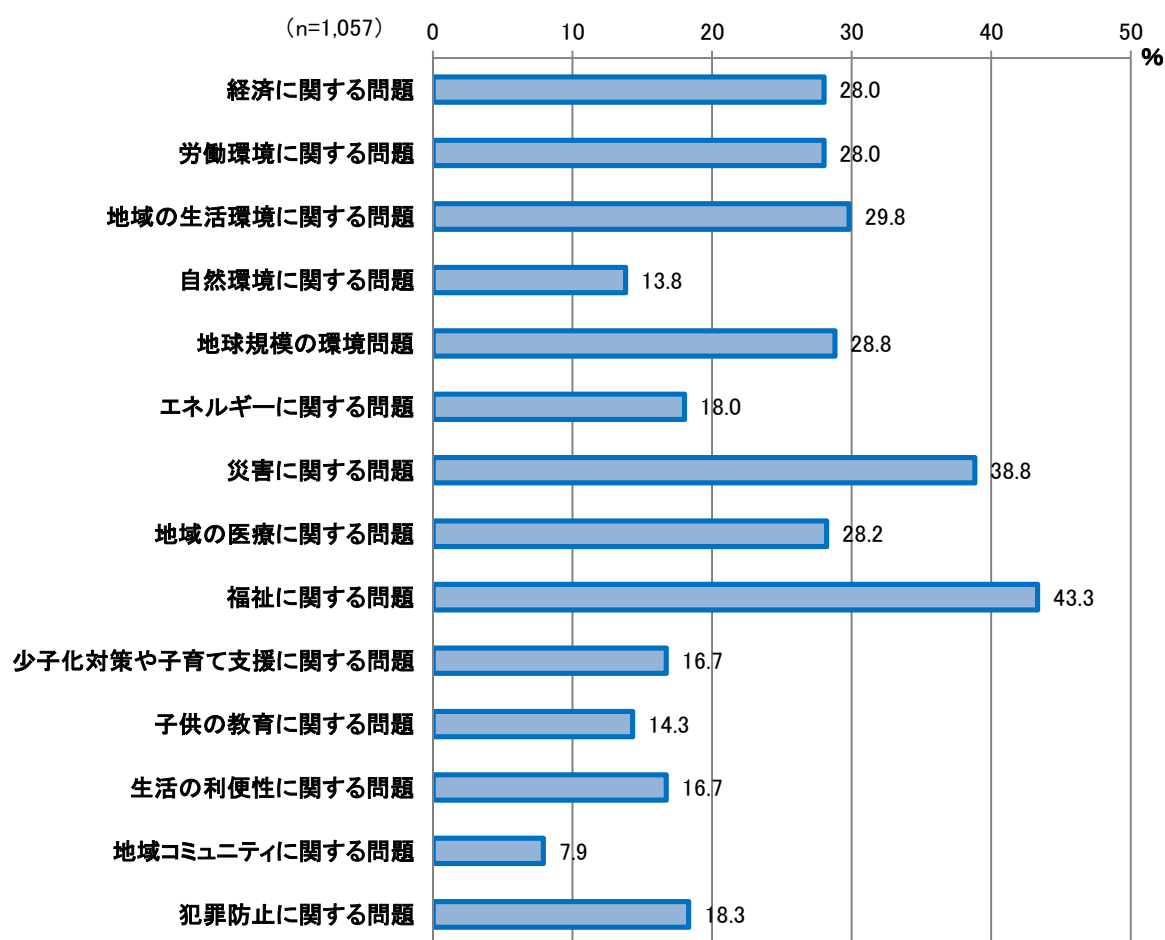
3. 2 環境問題に関する関心

3. 2. 1 社会問題についての関心度

問1 環境問題を含めた社会問題について、お聞きします。

(1) 以下の社会問題について、あなたが特に関心をお持ちの問題を4つまで選び、あてはまる番号に○をつけてください。(○は4つまで)

(1)今年度の傾向



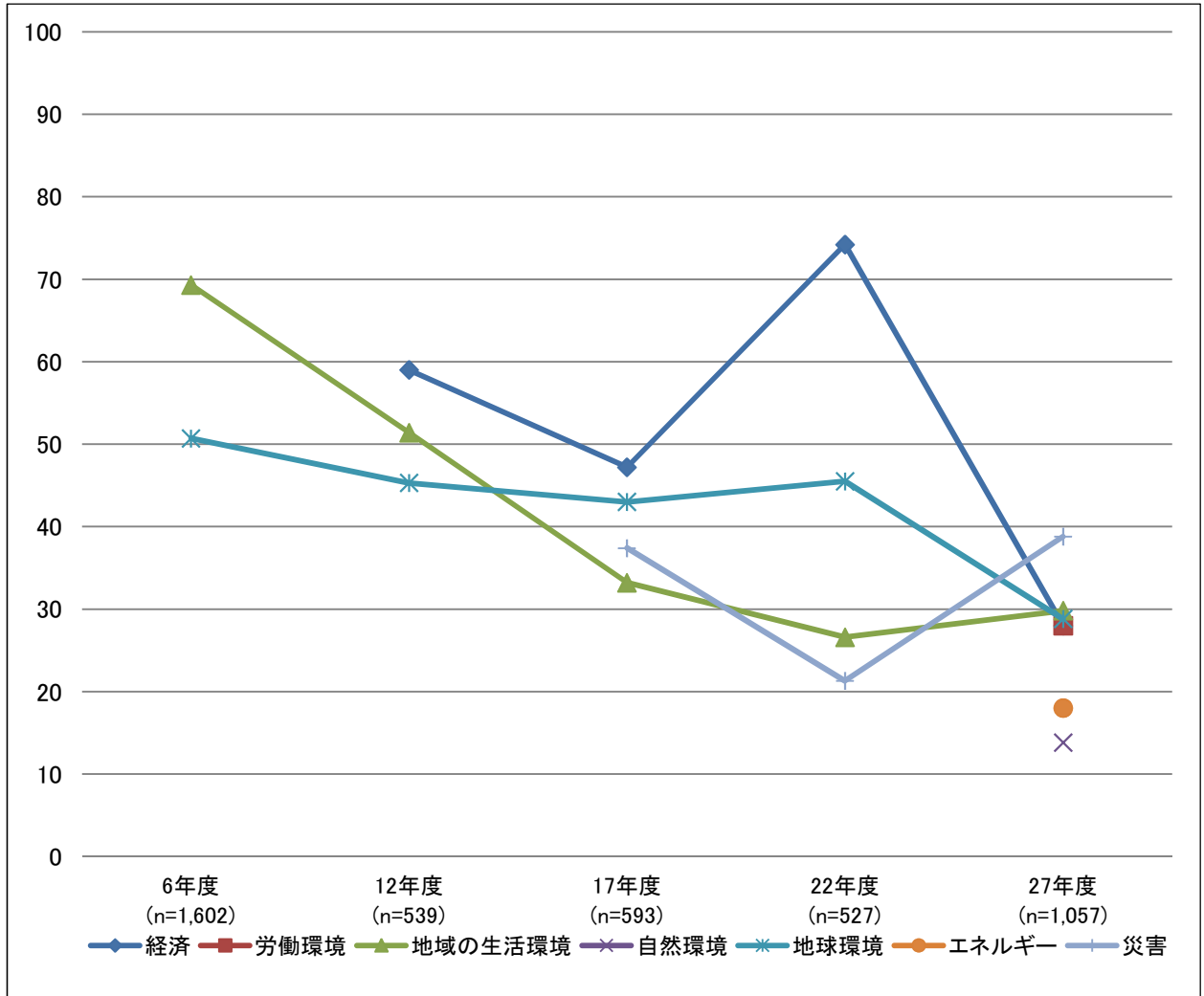
<グラフ1 社会問題で関心がある項目>

1番の関心事は「福祉に関する問題」

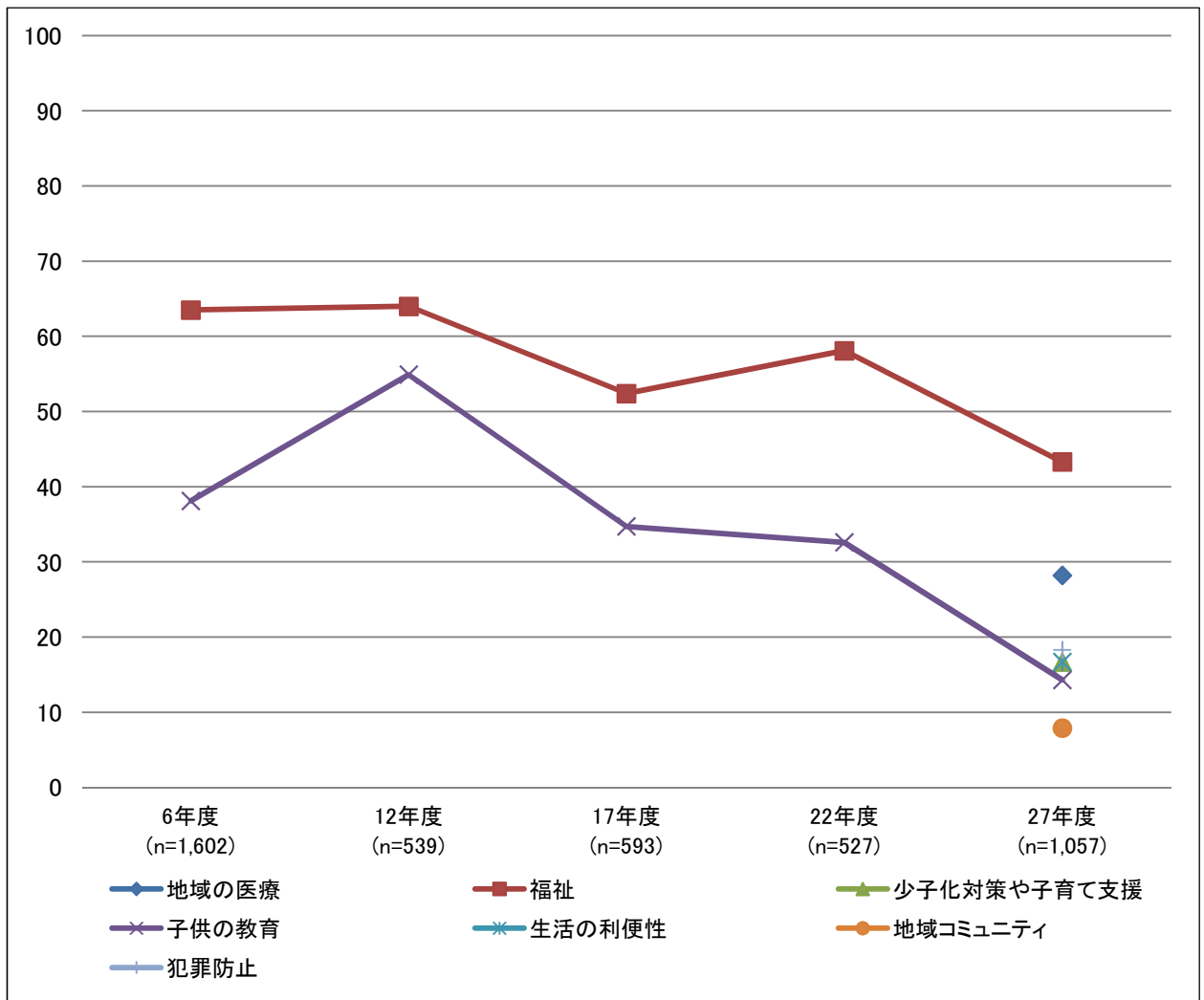
特に関心のある問題として「福祉に関する問題（43.3%）」、2番目が「災害に関する問題（38.8%）」、3番目が「地域の生活環境に関する問題（29.8%）」であった。

一方、「地域コミュニティに関する問題（7.9%）」「自然環境に関する問題（13.8%）」「子供の教育に関する問題（14.3%）」については関心が低かった。

(2) 経年推移



	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
経済		59.0	47.2	74.2	28.0
労働環境					28.0
地域の生活環境	69.3	51.4	33.2	26.6	29.8
自然環境					13.8
地球環境	50.7	45.3	43.0	45.5	28.8
エネルギー					18.0
災害			37.4	21.3	38.8



	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
地域の医療					28.2
福祉	63.5	64.0	52.4	58.1	43.3
少子化対策や子育て支援					16.7
子供の教育	38.1	54.9	34.7	32.6	14.3
生活の利便性					16.7
地域コミュニティ					7.9
犯罪防止					18.3

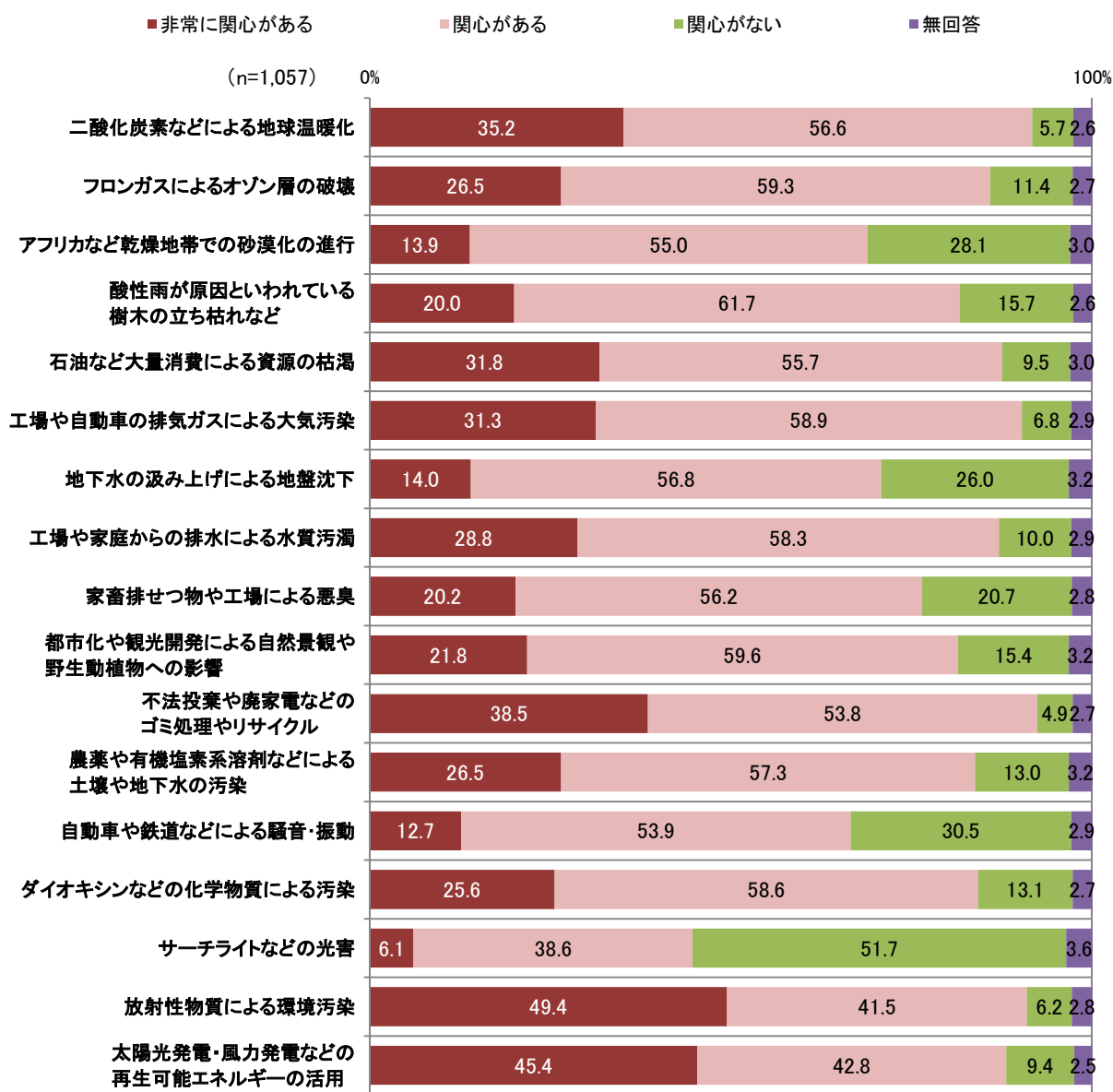
＜グラフ2 社会問題で関心がある項目 経年推移＞

3. 2. 2 環境問題についての関心度

(2) 環境問題への関心について、お聞きします。

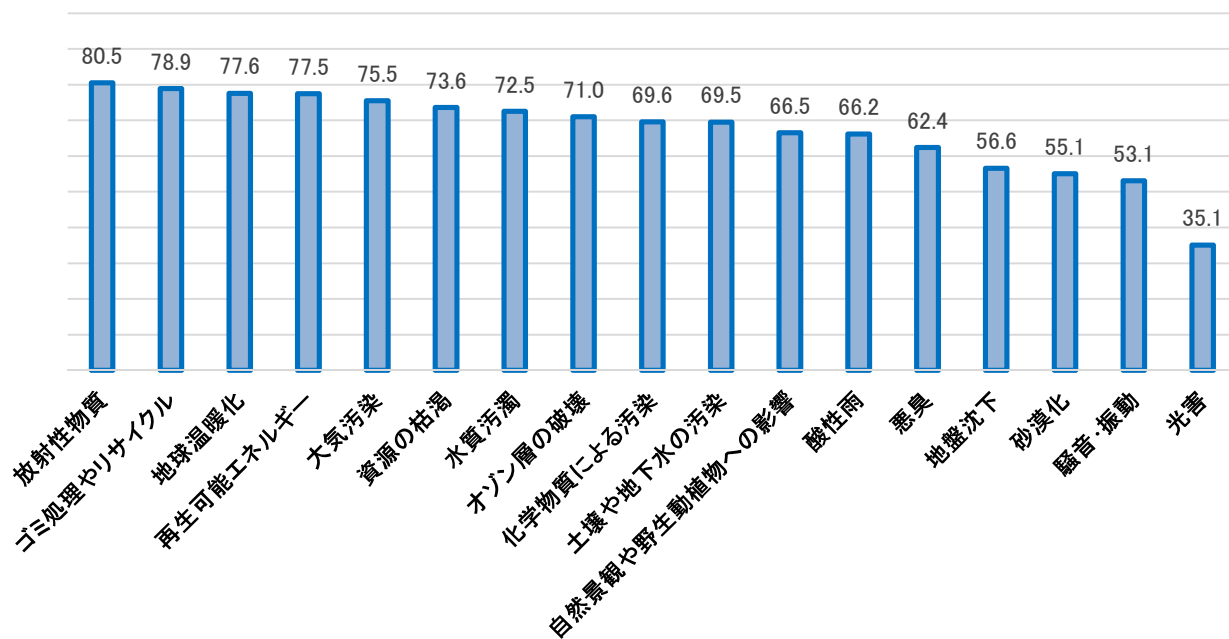
環境問題には様々な内容がありますが、あなたは以下の環境問題にどの程度関心をお持ちですか。それぞれの問題について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

(1) 今年度の傾向



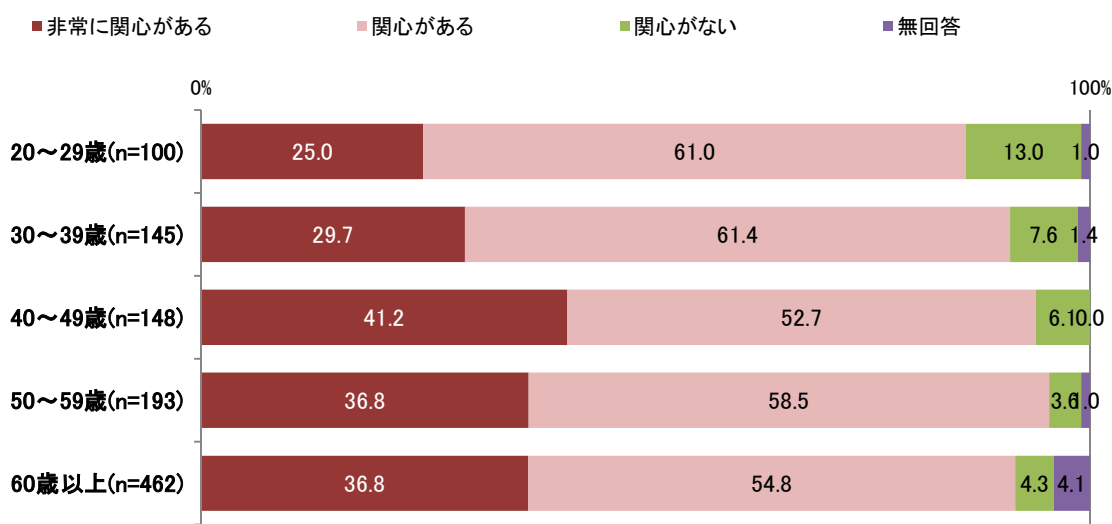
<グラフ3 個別環境問題の関心度>

本設問では、「非常に興味がある」=100点、「興味がある」=75点、「興味がない」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。



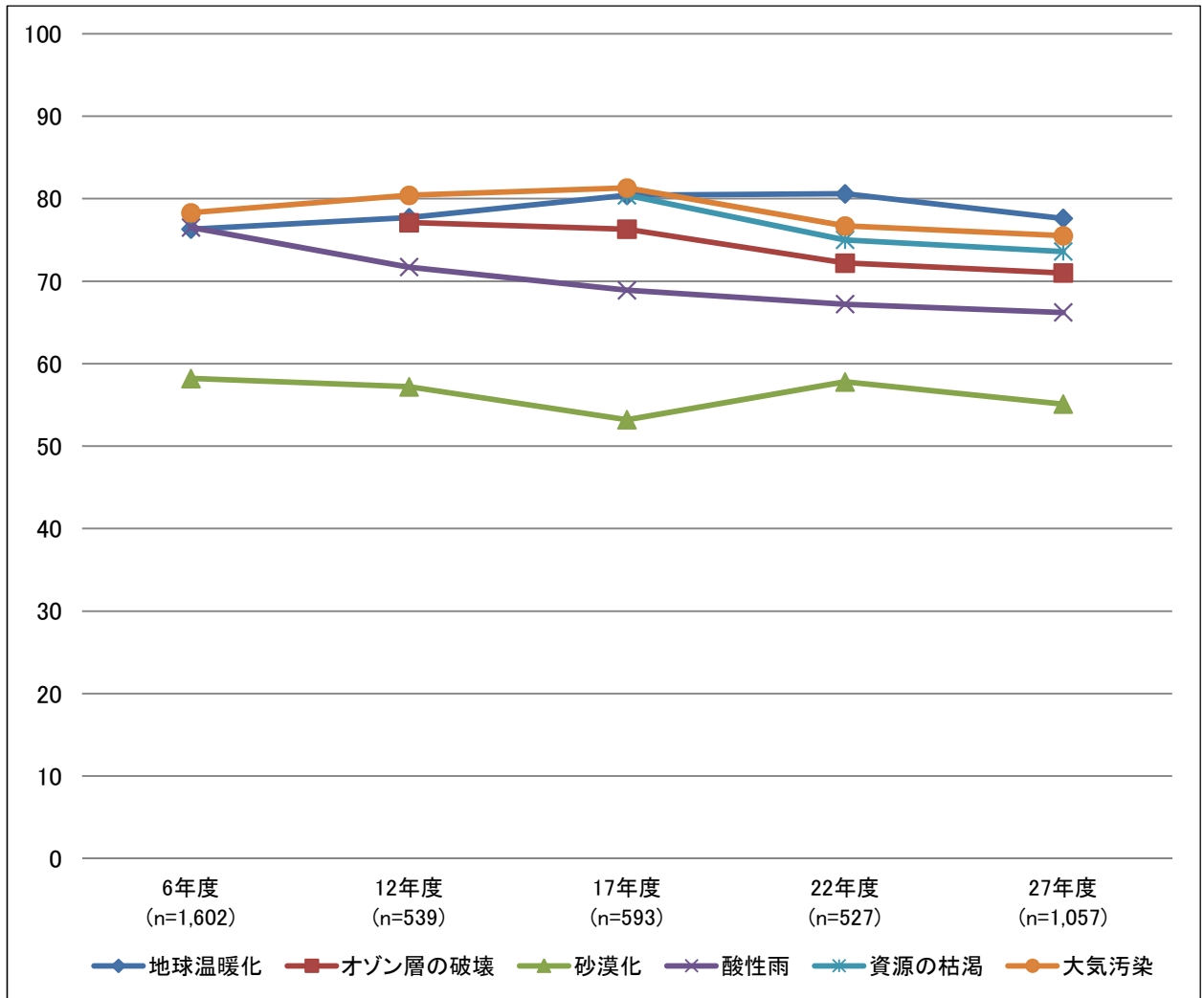
<グラフ4 個別環境問題の関心度 加重平均>

(2)年代別傾向

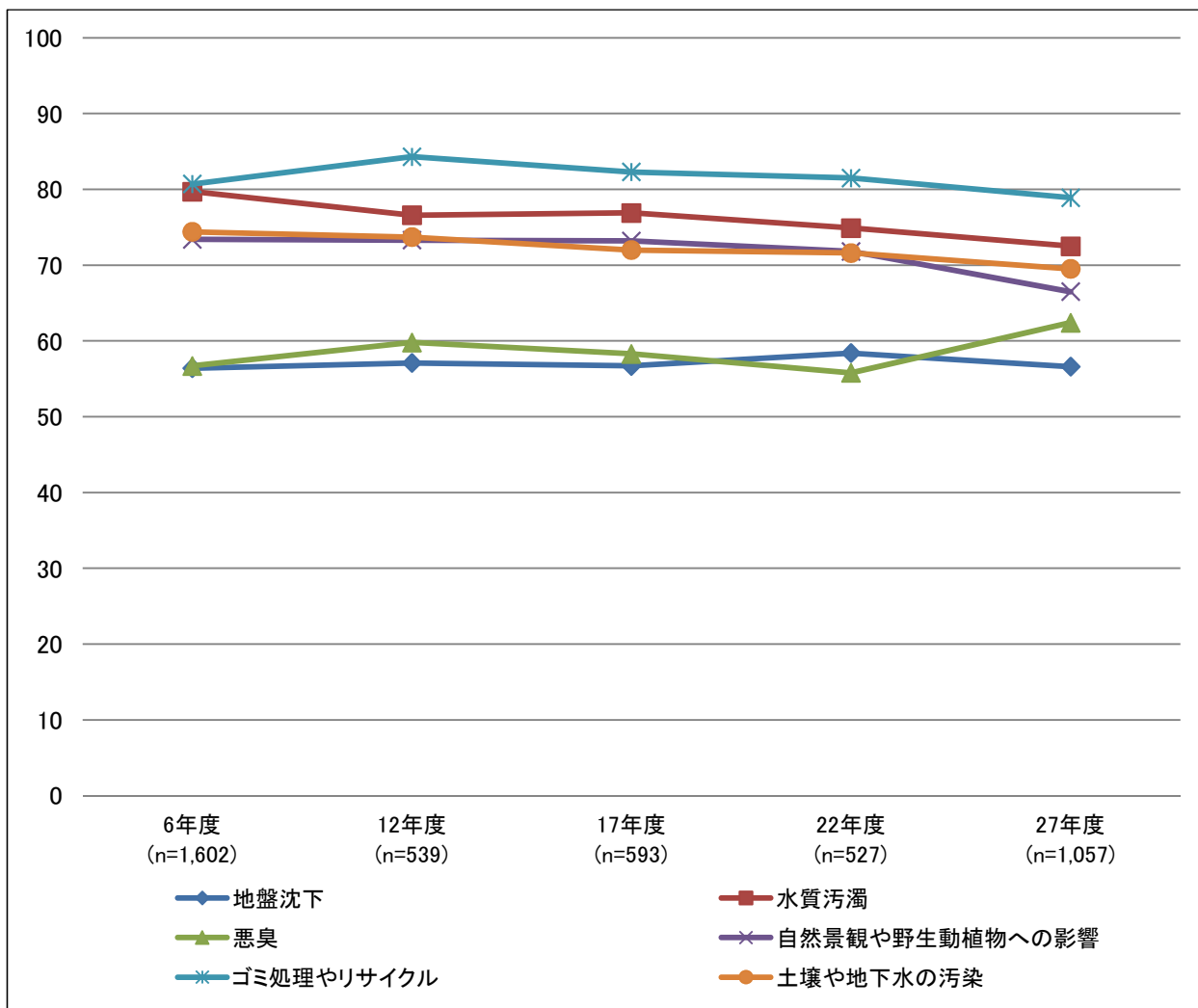


<グラフ5 二酸化炭素などによる地球温暖化 年代別>

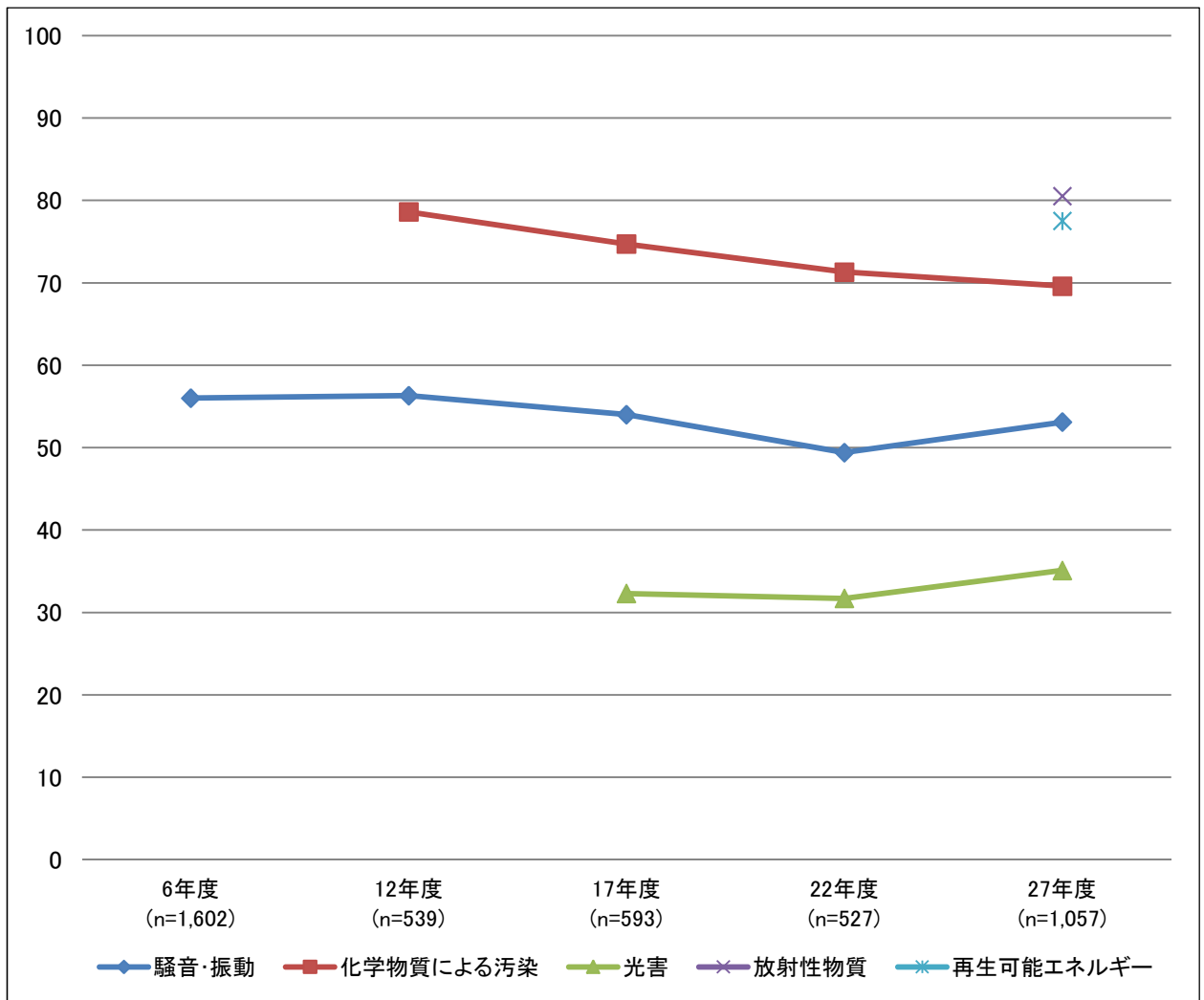
(3) 経年推移 (加重平均)



	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
地球温暖化	76.3	77.7	80.4	80.6	77.6
オゾン層の破壊		77.1	76.3	72.2	71.0
砂漠化	58.2	57.2	53.2	57.8	55.1
酸性雨	76.5	71.7	68.9	67.2	66.2
資源の枯渇			80.4	75.0	73.6
大気汚染	78.3	80.4	81.3	76.7	75.5



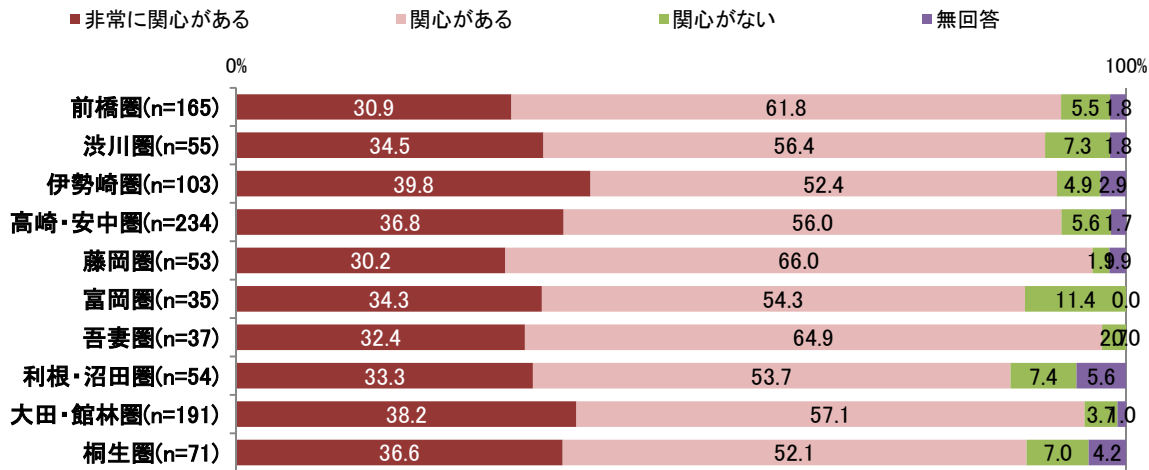
	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
地盤沈下	56.4	57.1	56.7	58.4	56.6
水質汚濁	79.7	76.6	76.9	74.9	72.5
悪臭	56.7	59.8	58.3	55.8	62.4
自然景観や野生動植物への影響	73.4	73.3	73.2	71.8	66.5
ゴミ処理やリサイクル	80.7	84.3	82.3	81.5	78.9
土壌や地下水の汚染	74.4	73.7	72.0	71.6	69.5



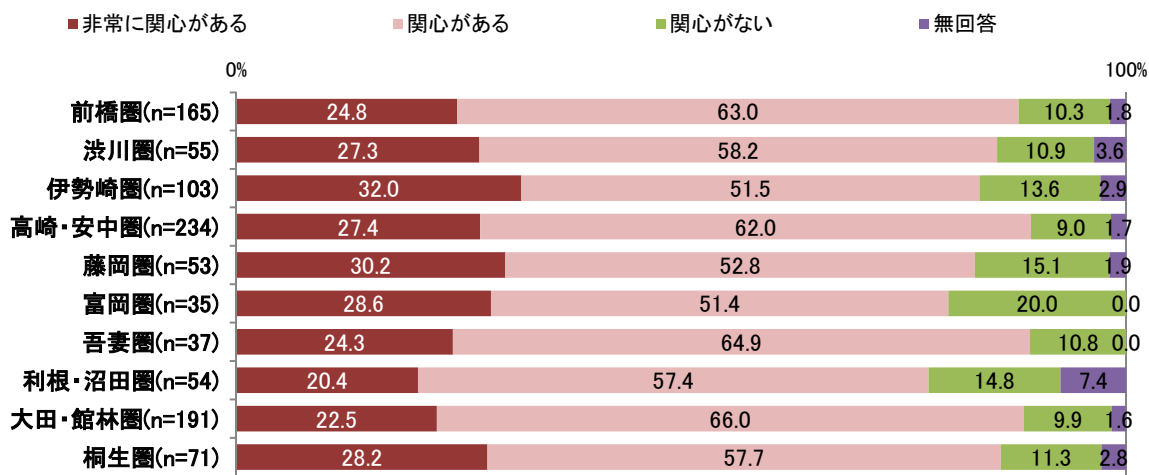
	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
騒音・振動	56.0	56.3	54.0	49.4	53.1
化学物質による汚染		78.6	74.7	71.3	69.6
光害			32.3	31.7	35.1
放射性物質					80.5
再生可能エネルギー					77.5

<グラフ6 個別環境問題の関心度 加重平均 経年推移>

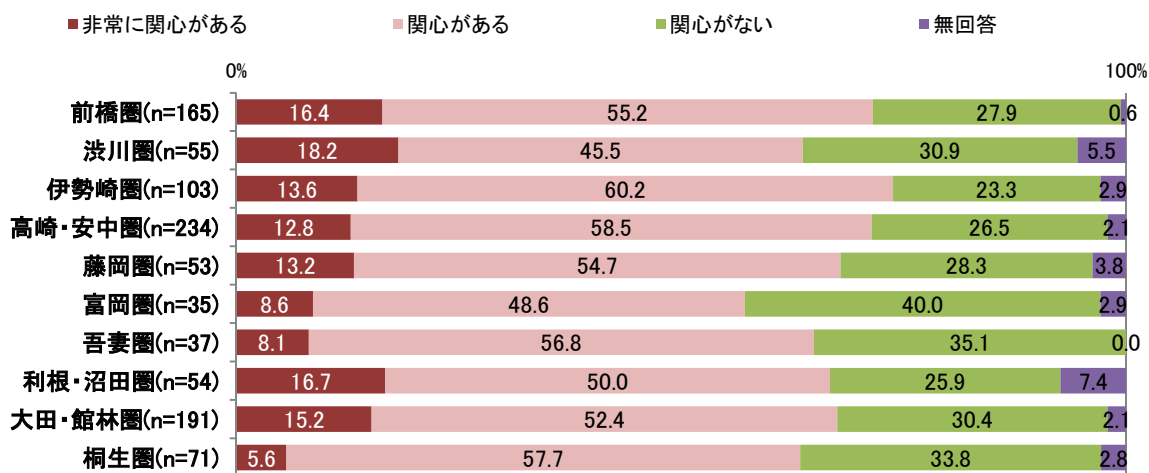
(4) 圏域別傾向j.



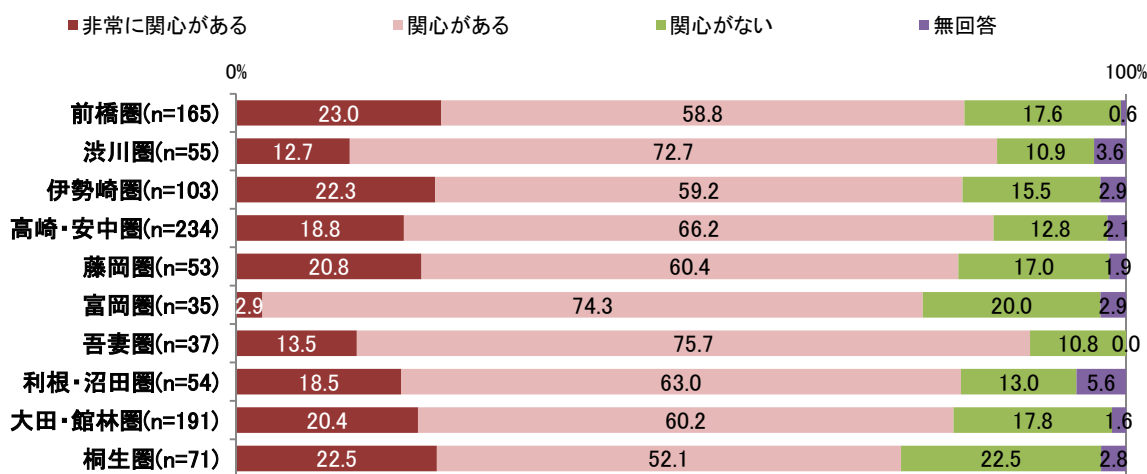
<グラフ7 二酸化炭素などによる地球温暖化 圏域別>



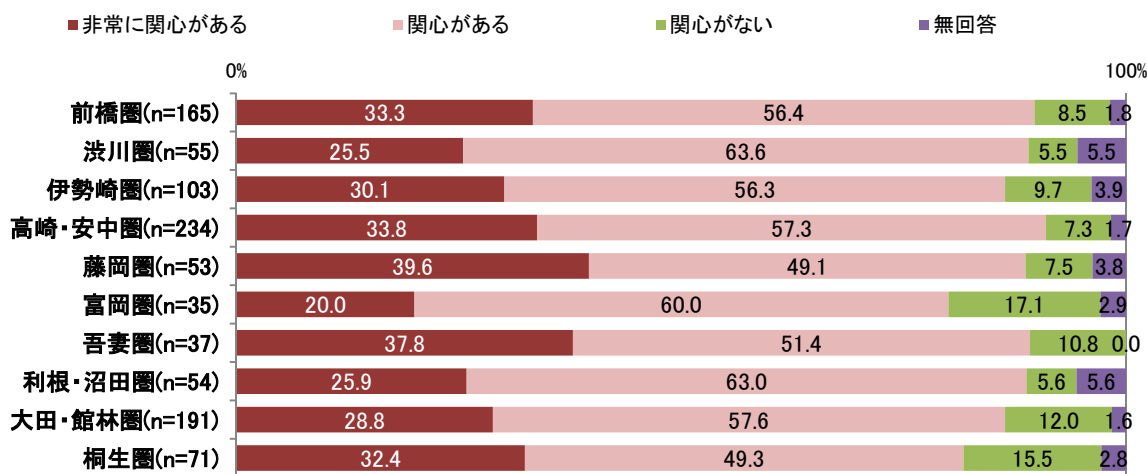
<グラフ8 フロンガスによるオゾン層の破壊 圏域別>



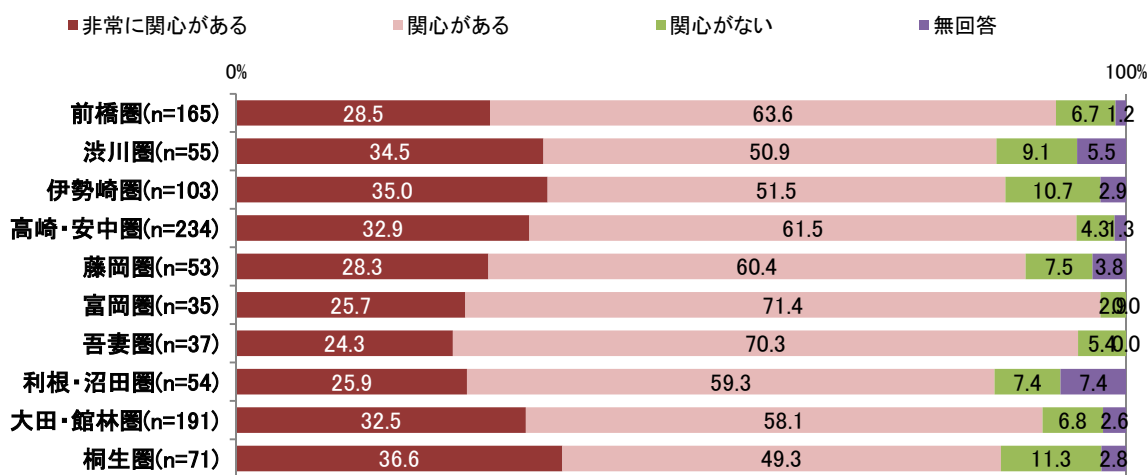
<グラフ9 アフリカなど乾燥地帯での砂漠化の進行 圏域別>



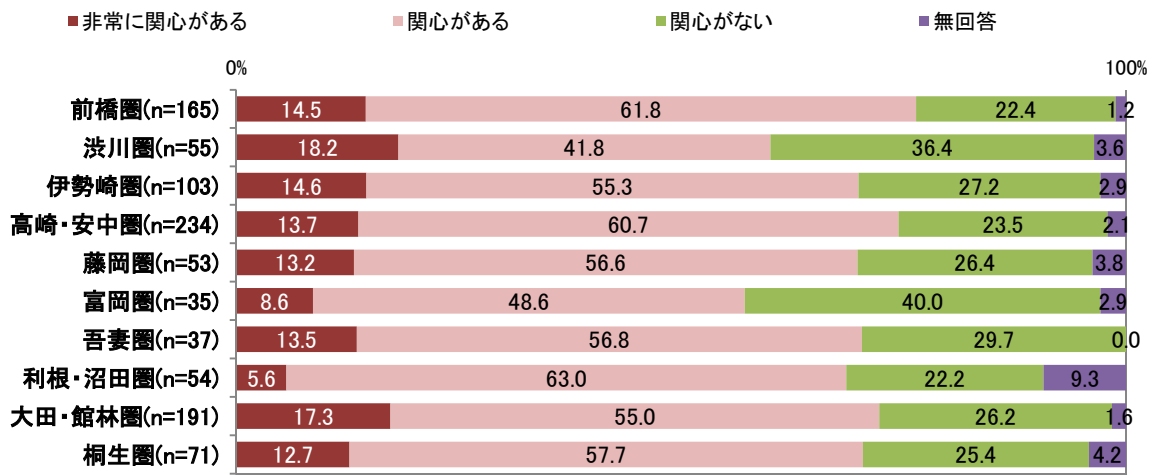
<グラフ10 酸性雨が原因といわれている樹木の立ち枯れなど 圏域別>



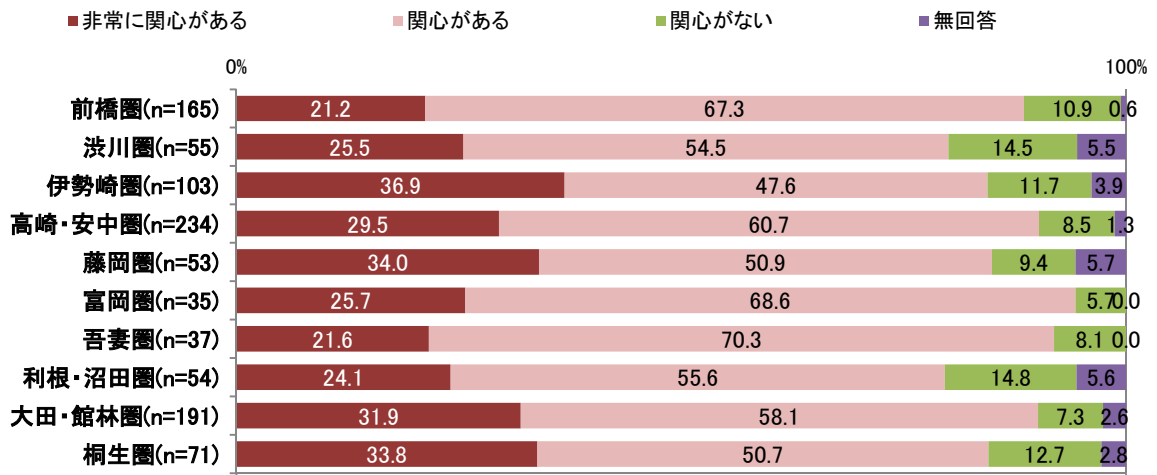
<グラフ11 石油など大量消費による資源の枯渇 圏域別>



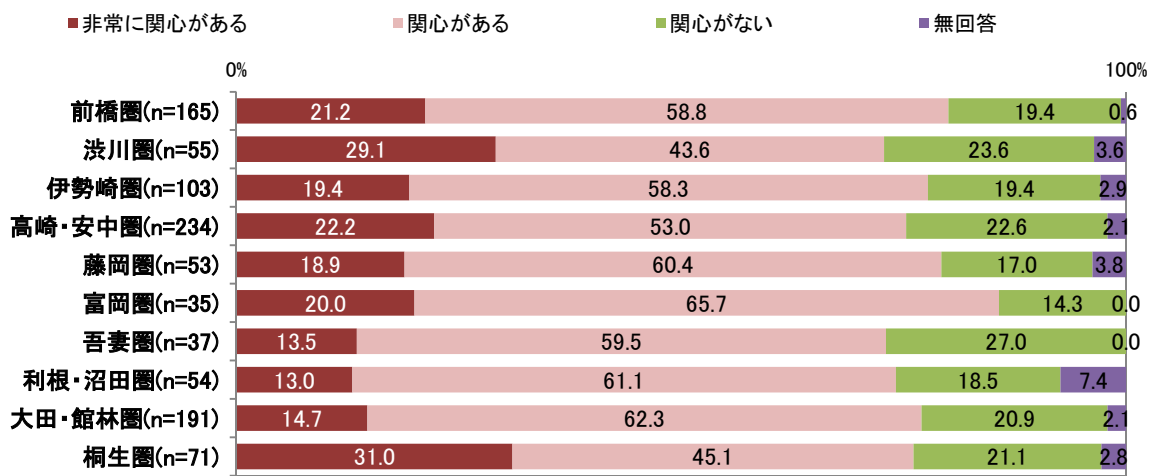
<グラフ12 工場や自動車の排気ガスによる大気汚染 圏域別>



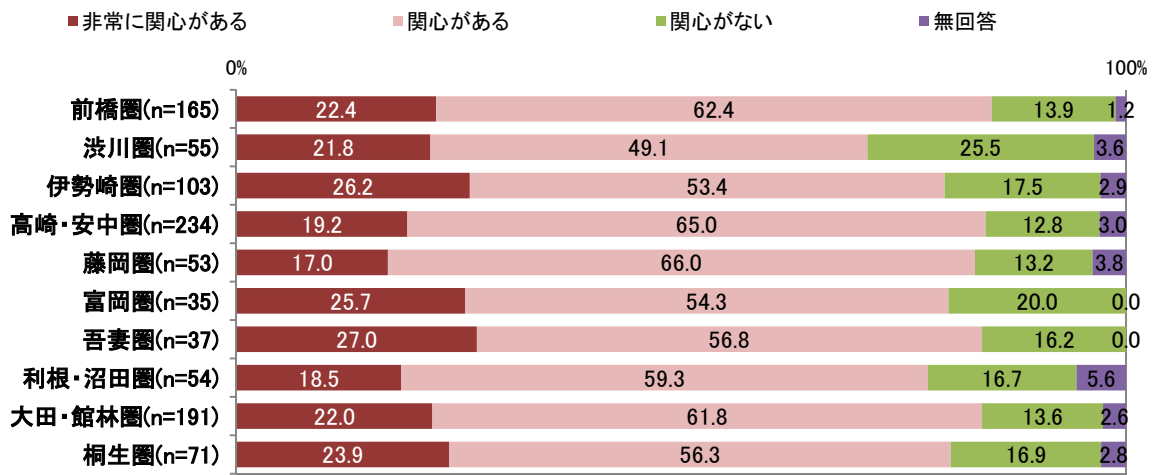
<グラフ13 地下水の汲み上げによる地盤沈下 圏域別>



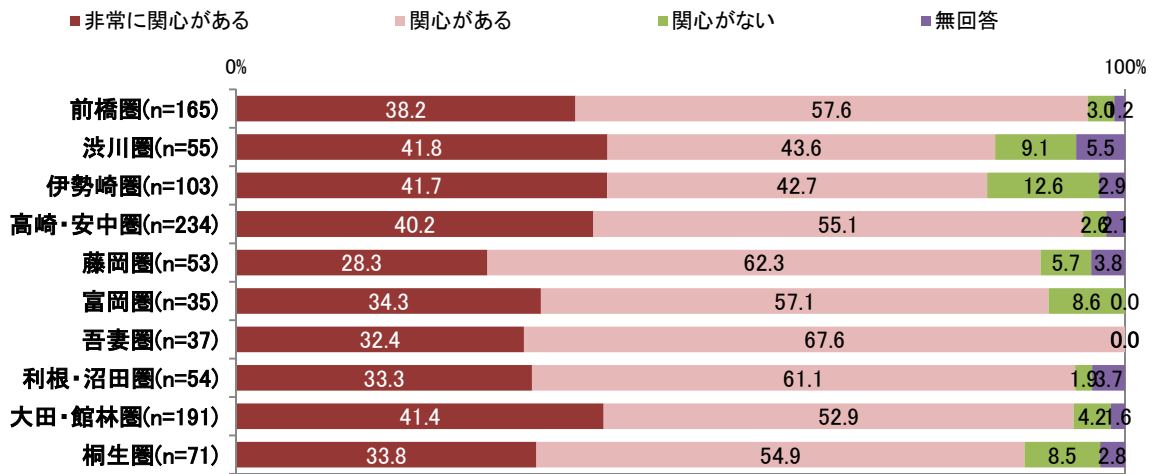
<グラフ14 工場や家庭からの排水による水質汚濁 圏域別>



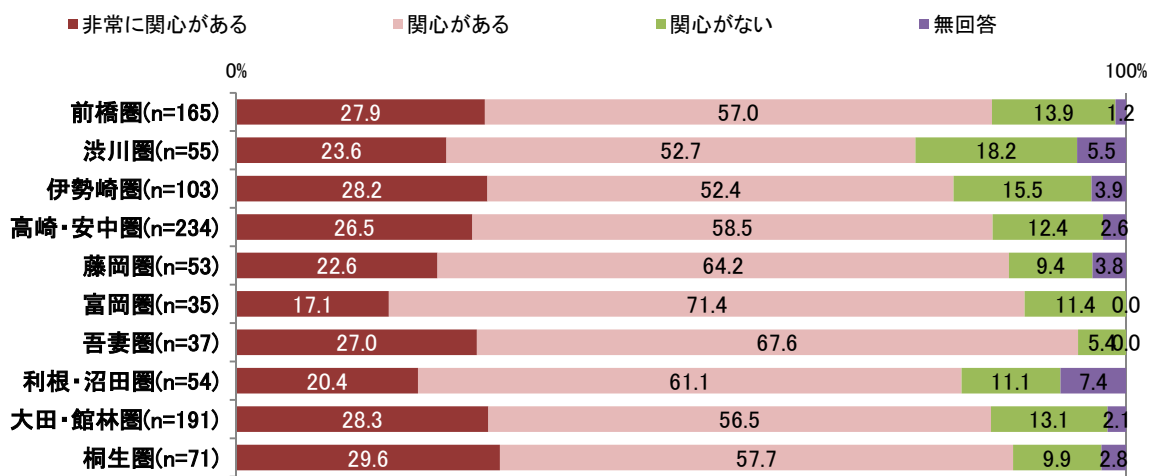
<グラフ15 家畜排せつ物や工場による悪臭 圏域別>



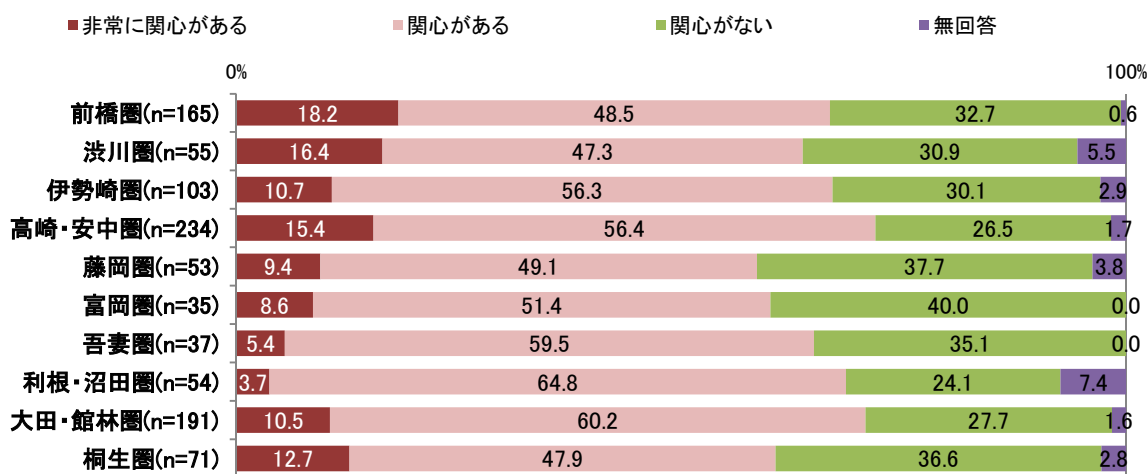
<グラフ16 都市化や観光開発による自然景観や野生動植物への影響 圏域別>



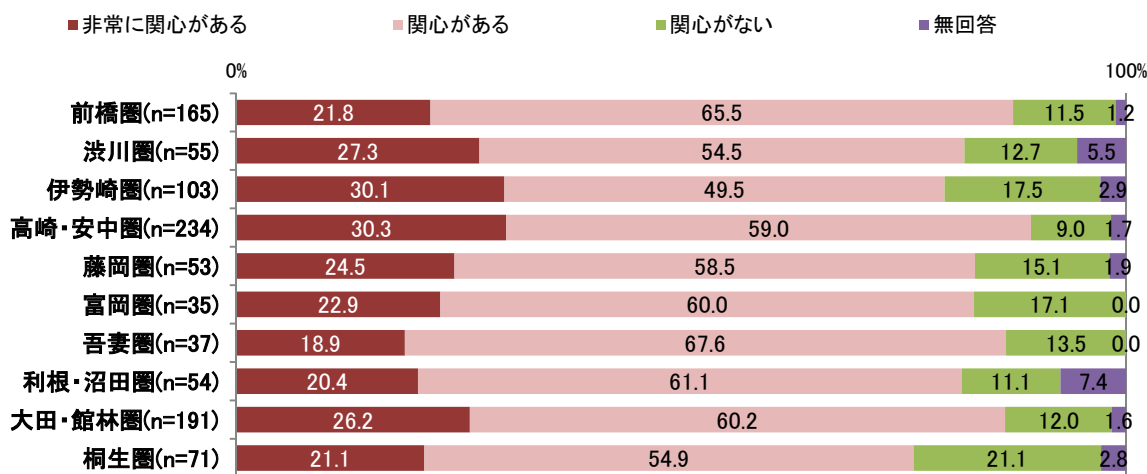
<グラフ17 不法投棄や廃家電などのゴミ処理やリサイクル 圏域別>



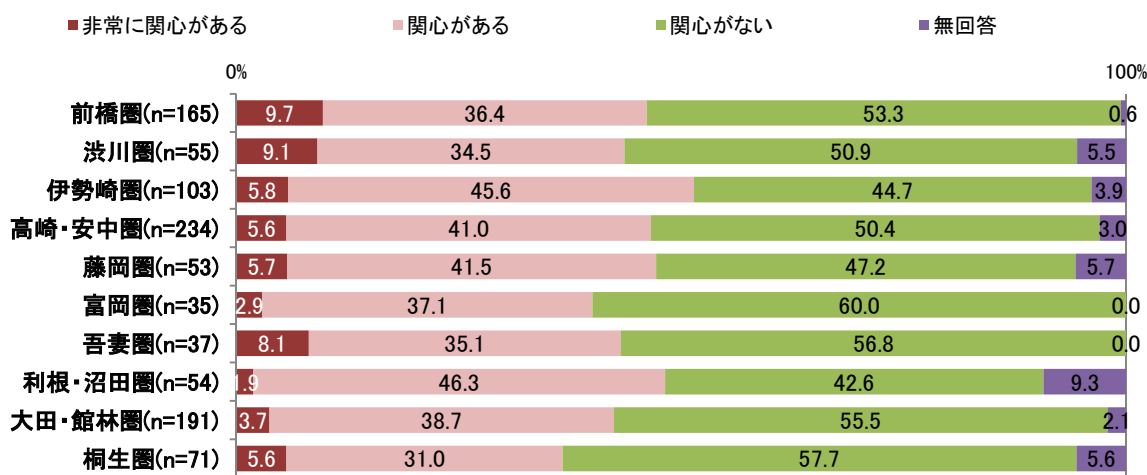
<グラフ18 農業や有機塩素系溶剤などによる土壌や地下水の汚染 圏域別>



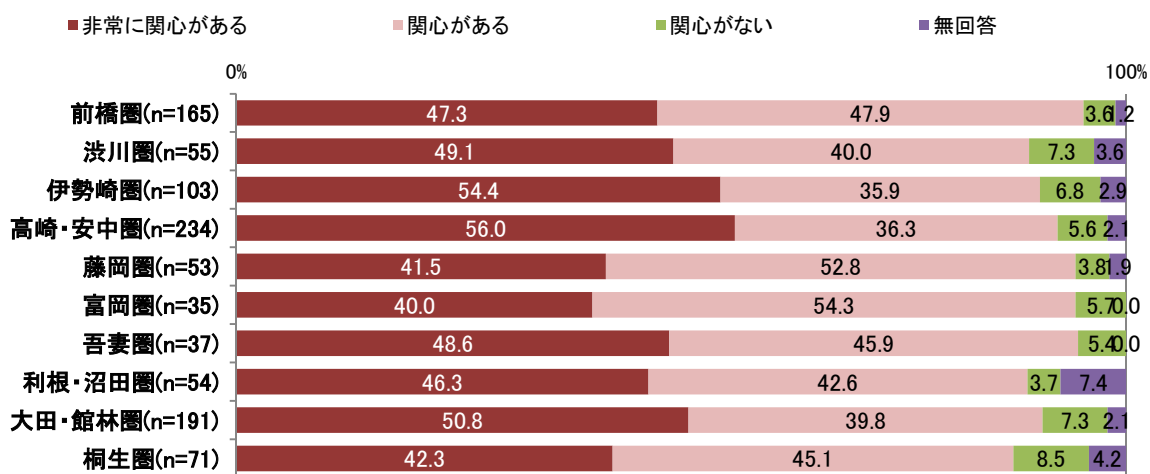
<グラフ19 自動車や鉄道などによる騒音・振動 圏域別>



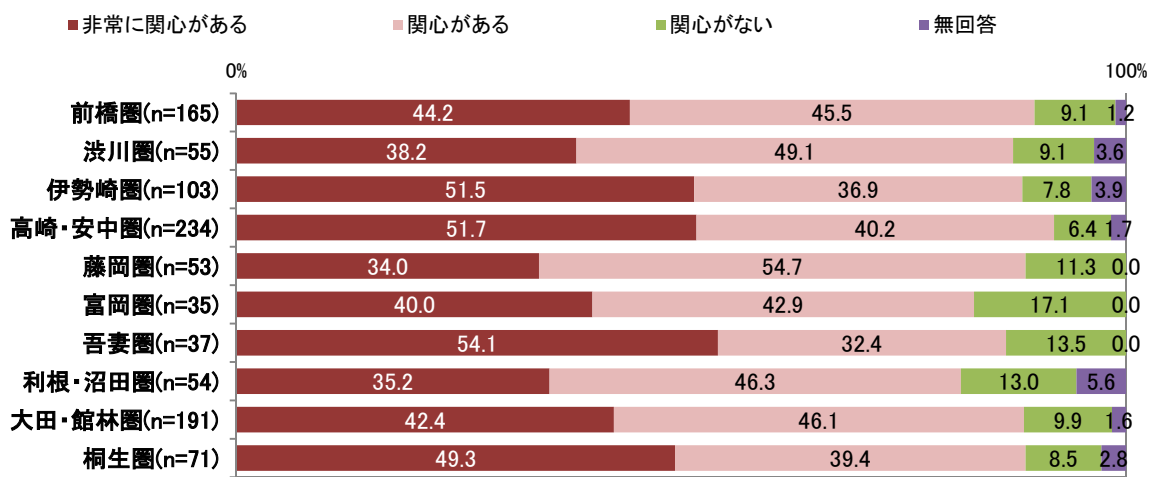
<グラフ20 ダイオキシンなどの化学物質による汚染 圏域別>



<グラフ21 サーチライトなどの光害 圏域別>



<グラフ22 放射性物質による環境汚染 圏域別>



<グラフ23 太陽光発電・風力発電などの再生可能エネルギーの活用 圏域別>

関心の高い項目は「ゴミ処理やリサイクル」「地球温暖化」「放射性物質」

特に関心のある問題として「不法投棄や廃家電などのゴミ処理やリサイクル（92.3%）」、2番目が「二酸化炭素などによる地球温暖化（91.8%）」、3番目が「放射性物質による環境汚染（90.9%）」であった。

中でも、「地球温暖化」において年代別傾向をみると、非常に関心を持っている年代は「50代（95.3%）」、2番目が「40代（93.9%）」、3番目が「60歳以上（91.6%）」であることがわかった。

一方、関心のない問題として「サーチライトなどの光害（51.7%）」、2番目が「自動車や鉄道などによる騒音・振動（30.5%）」、3番目が「アフリカなど乾燥地帯での砂漠化の進行（28.1%）」であった。

今回から新たに追加された2項目に関しては、「放射性物質による環境汚染（90.9%）」「太陽光発電・風力発電などの再生可能エネルギーの活用（88.2%）」と、2項目ともに関心が高かった。

また、特に関心の高かった3項目に関して、特に関心のある割合の圏域別傾向をみると、「不法投棄や廃家電などのゴミ処理やリサイクル」に関しては、1番目が「吾妻圏（100.0%）」、2番目が「前橋圏（95.8%）」、3番目が「高崎・安中圏（95.3%）」、「二酸化炭素などによる地球温暖化」に関しては、1番目が「吾妻圏（97.3%）」、2番目が「藤岡圏（96.2%）」、3番目が「大田・館林圏（95.3%）」、「放射性物質による環境汚染」に関しては、1番目が「前橋圏（95.2%）」、2番目が「吾妻圏（94.5%）」、3番目が「藤岡圏（94.3%）」、「富岡圏（94.3%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「関心のない問題」以外の割合は、「非常に関心がある」と「関心がある」の割合を合算して算出。

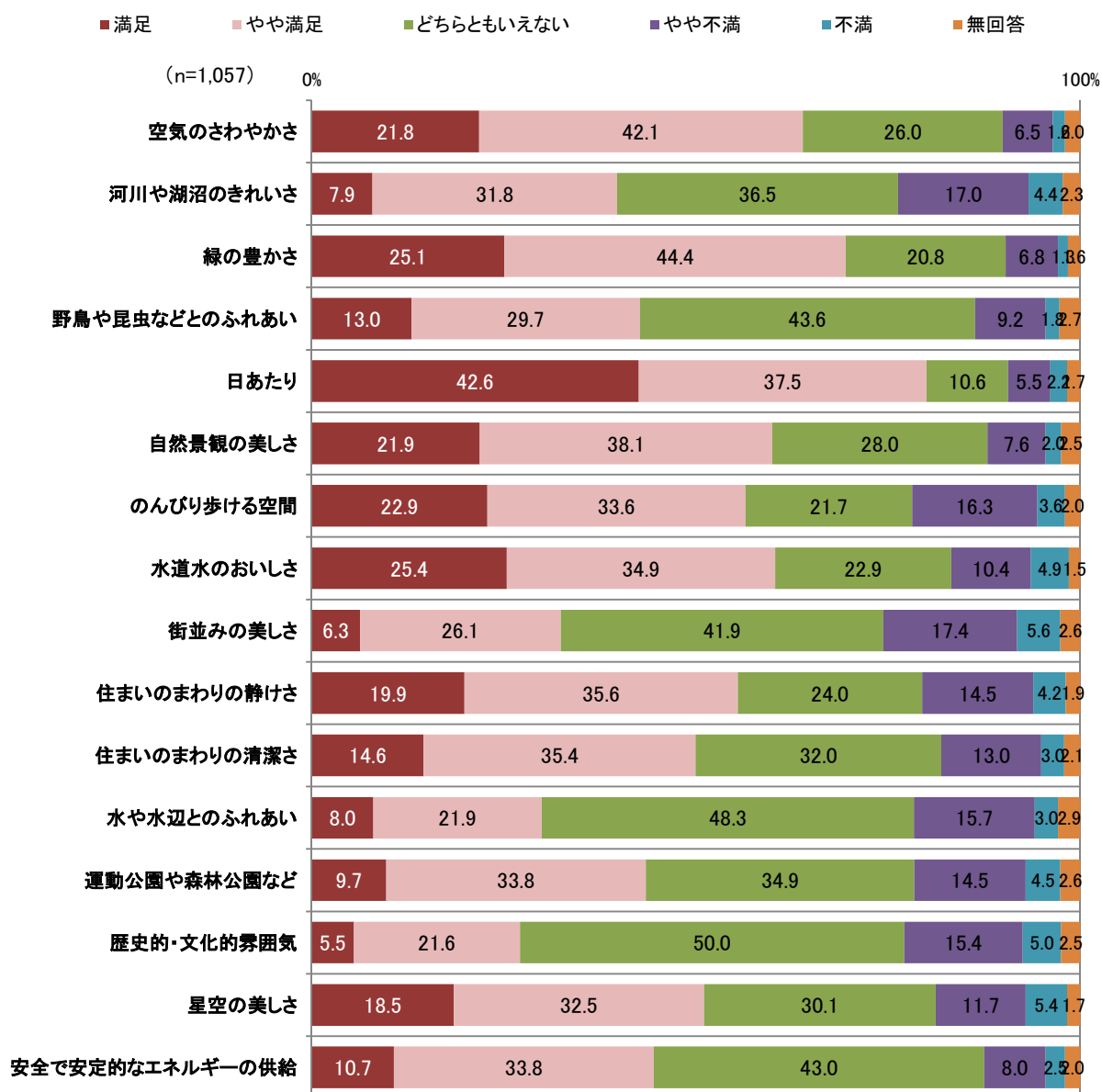
3.3 身のまわりの環境

3.3.1 身のまわりの環境の満足度

問2 身のまわりの環境に対する満足度をお聞きします。

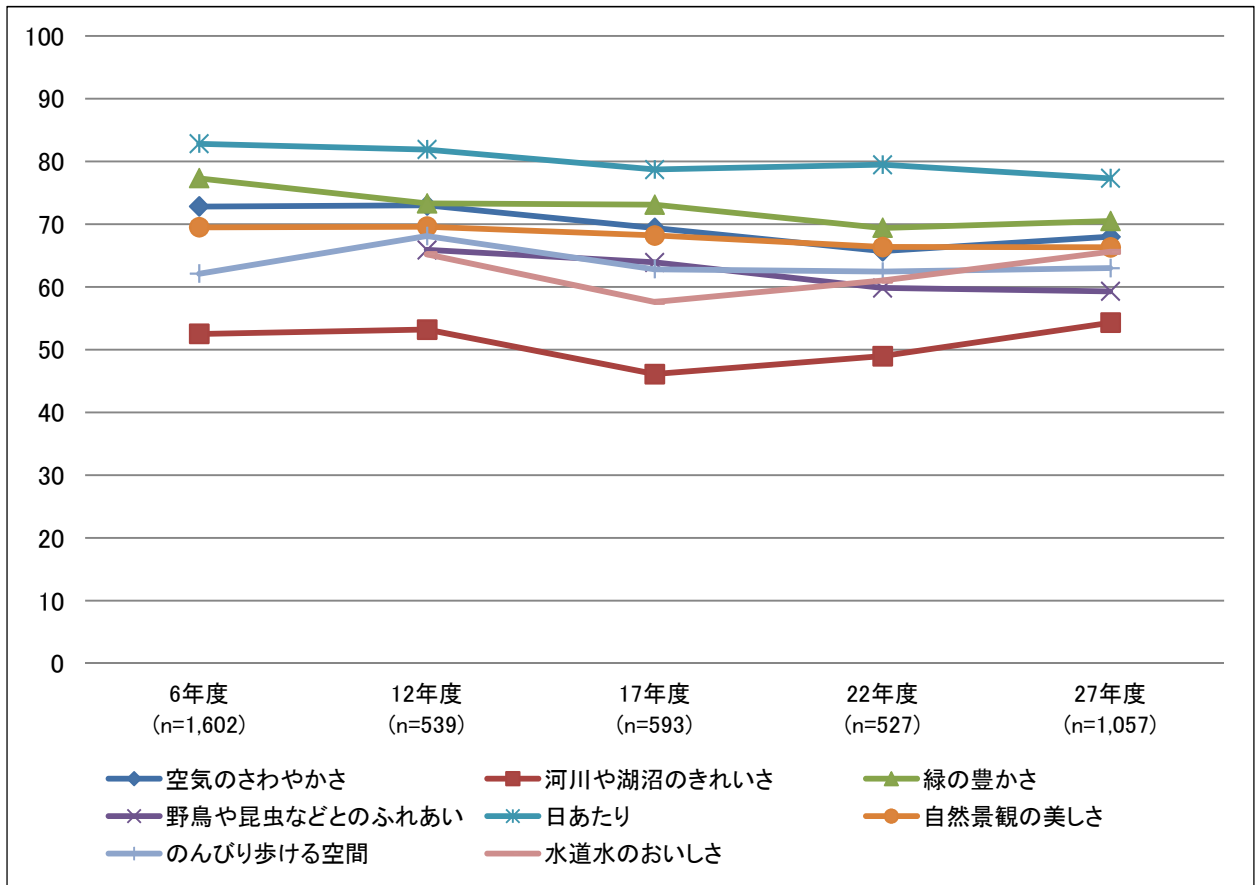
(1) あなたは、身のまわりの環境に満足していますか。各項目について、「1. 満足」～「5. 不満」の中から、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

(1)今年度の傾向

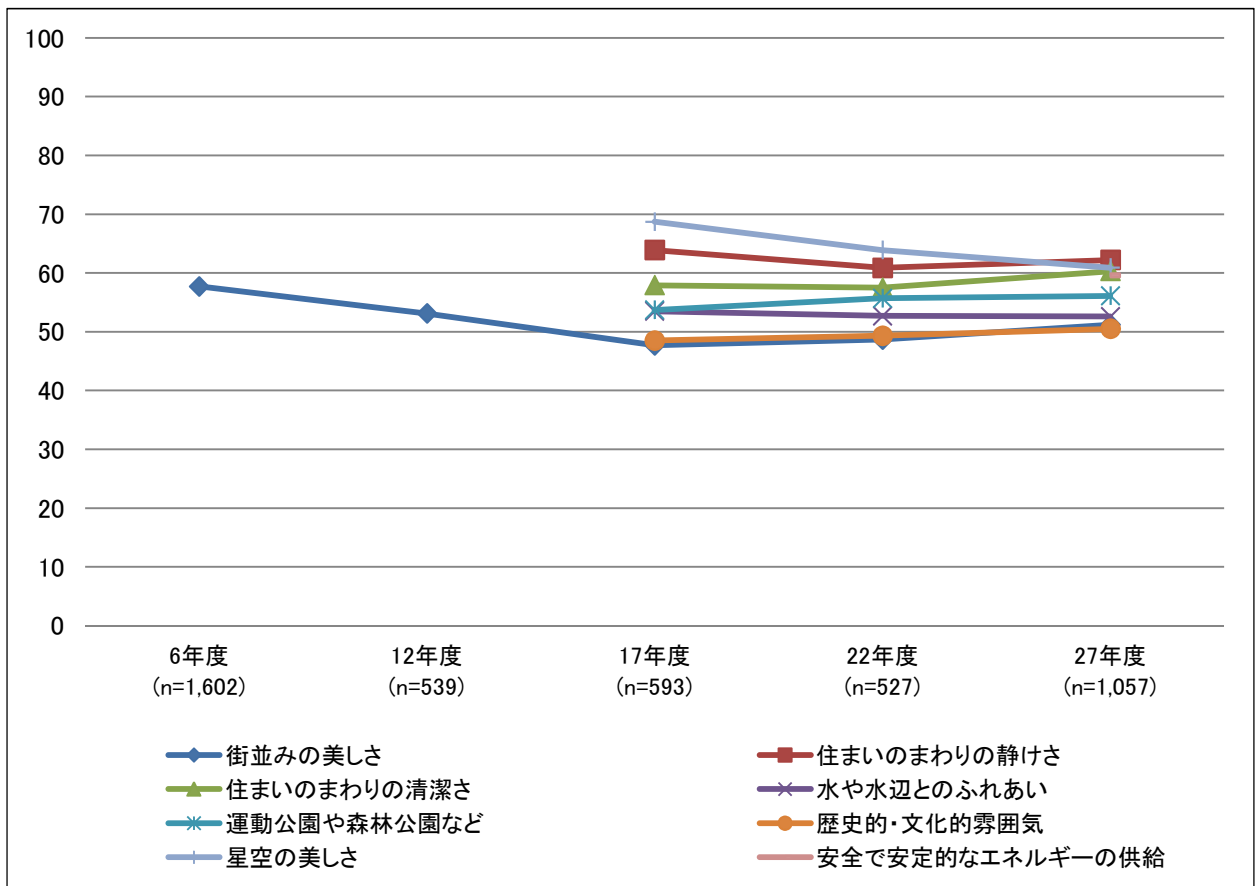


<グラフ24 身のまわりの環境の満足度>

(2) 経年推移 (加重平均)



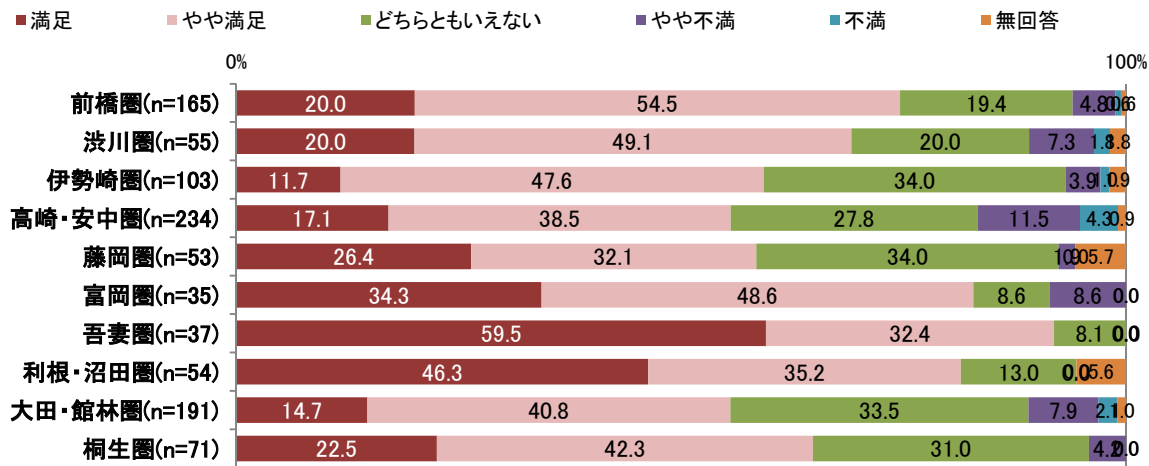
	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
空気のさわやかさ	72.8	73.0	69.4	65.7	68.0
河川や湖沼のきれいさ	52.5	53.2	46.1	49.0	54.3
緑の豊かさ	77.3	73.3	73.1	69.4	70.5
野鳥や昆虫などとのふれあい		65.9	63.9	59.8	59.3
日あたり	82.8	81.9	78.7	79.5	77.3
自然景観の美しさ	69.5	69.6	68.2	66.4	66.3
のんびり歩ける空間	62.1	68.1	62.8	62.4	63.0
水道水のおいしさ		65.2	57.6	61.0	65.6



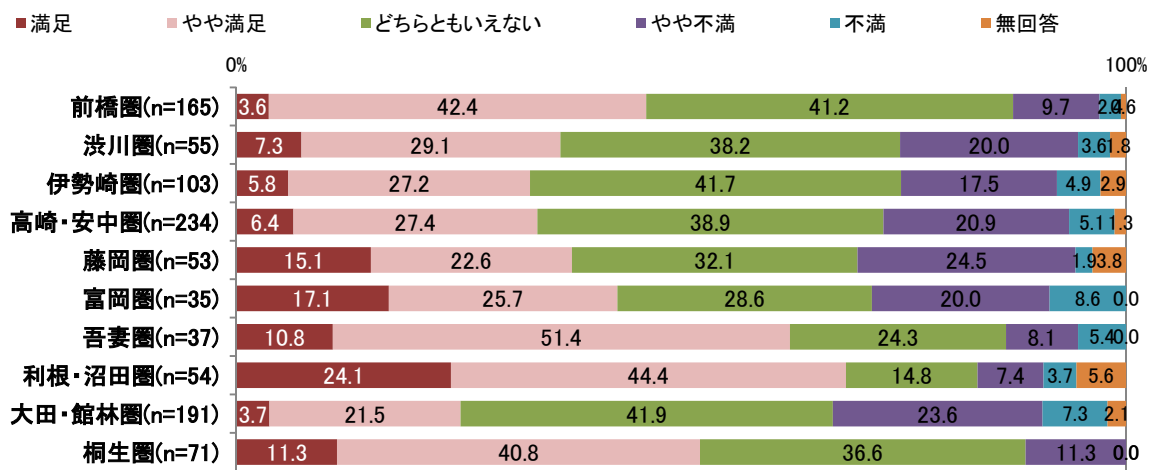
	6年度 (n=1,602)	12年度 (n=539)	17年度 (n=593)	22年度 (n=527)	27年度 (n=1,057)
街並みの美しさ	57.7	53.1	47.7	48.7	51.2
住まいのまわりの静けさ			63.9	60.9	62.2
住まいのまわりの清潔さ			57.9	57.5	60.3
水や水辺とのふれあい			53.5	52.7	52.6
運動公園や森林公園など			53.7	55.7	56.1
歴史的・文化的雰囲気			48.5	49.3	50.5
星空の美しさ			68.7	63.9	60.9
安全で安定的なエネルギーの供給					59.6

＜グラフ25 身のまわりの環境の満足度 加重平均 経年推移＞

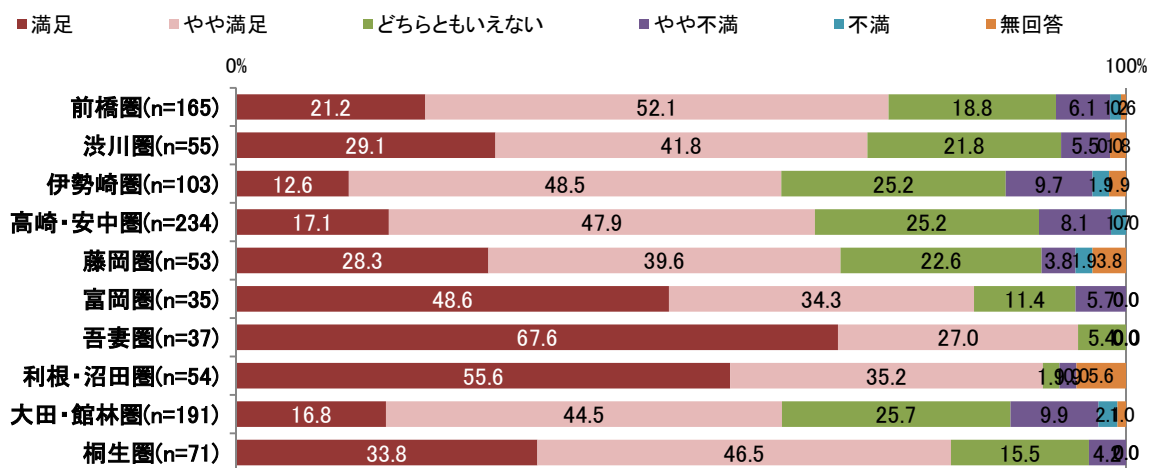
(3) 圏域別傾向



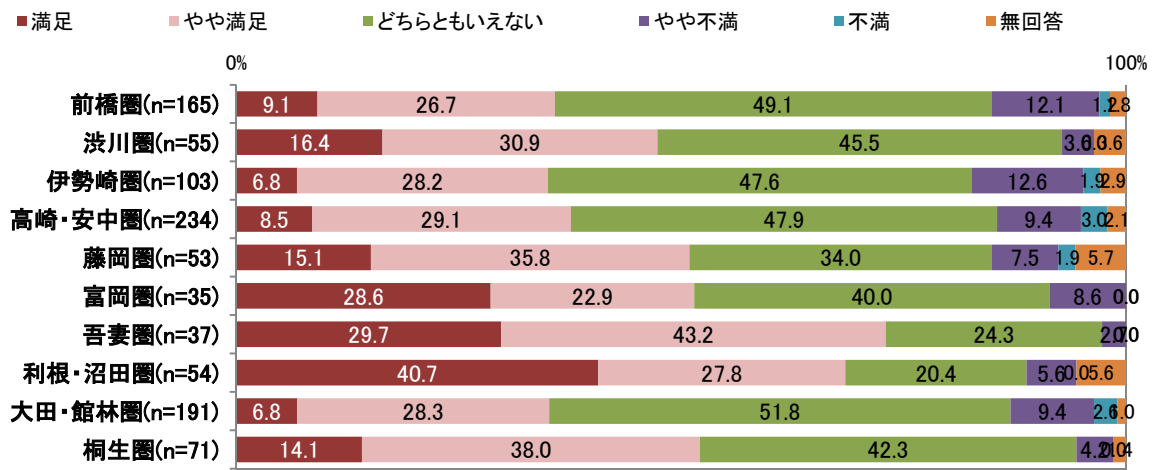
<グラフ26 空気のさわやかさ 圏域別>



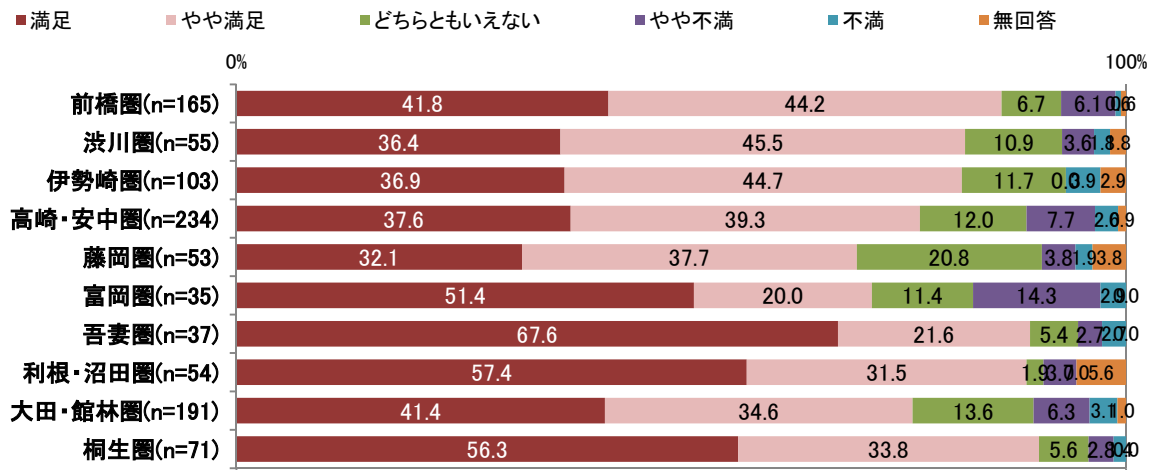
<グラフ27 河川や湖沼のきれいさ 圏域別>



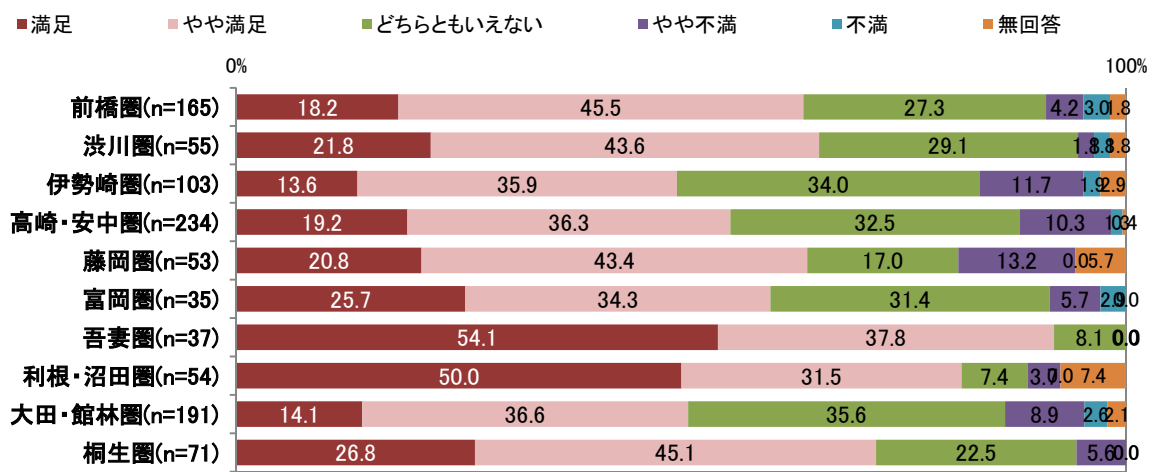
<グラフ28 緑の豊かさ 圏域別>



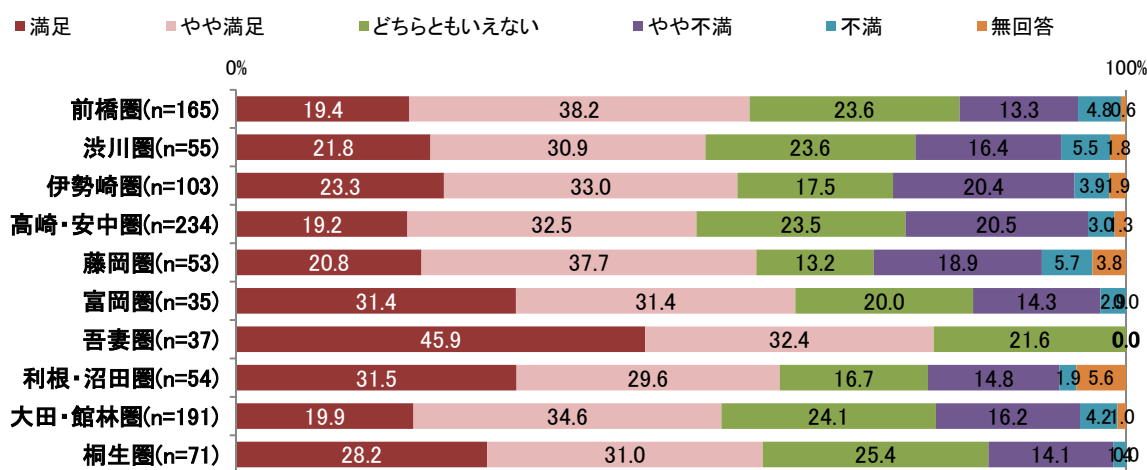
<グラフ29 野鳥や昆虫などとのふれあい 圏域別>



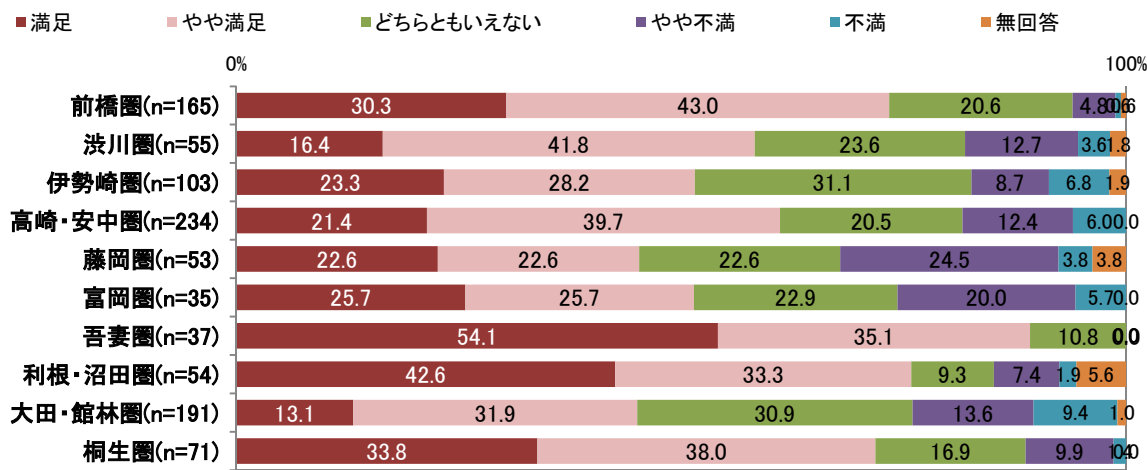
<グラフ30 日あたり 圏域別>



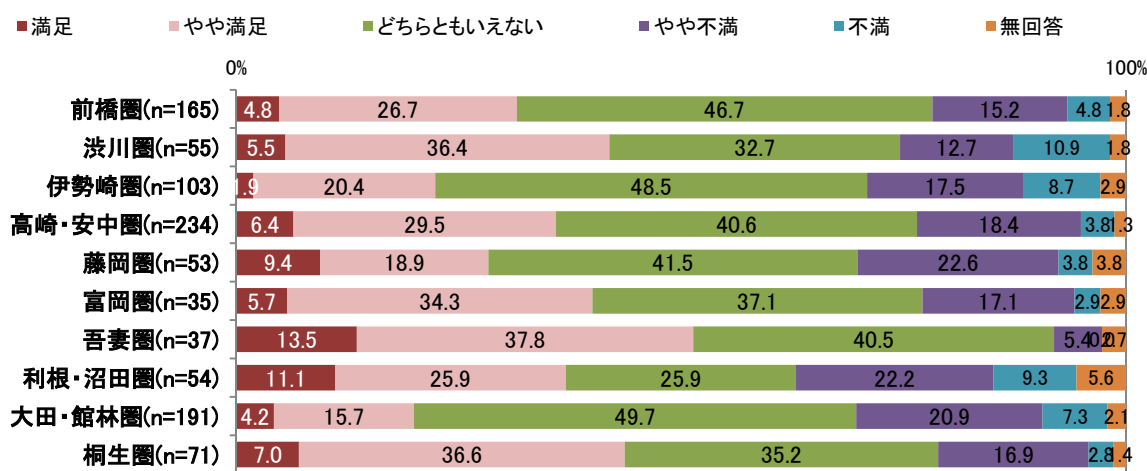
<グラフ31 自然景観の美しさ 圏域別>



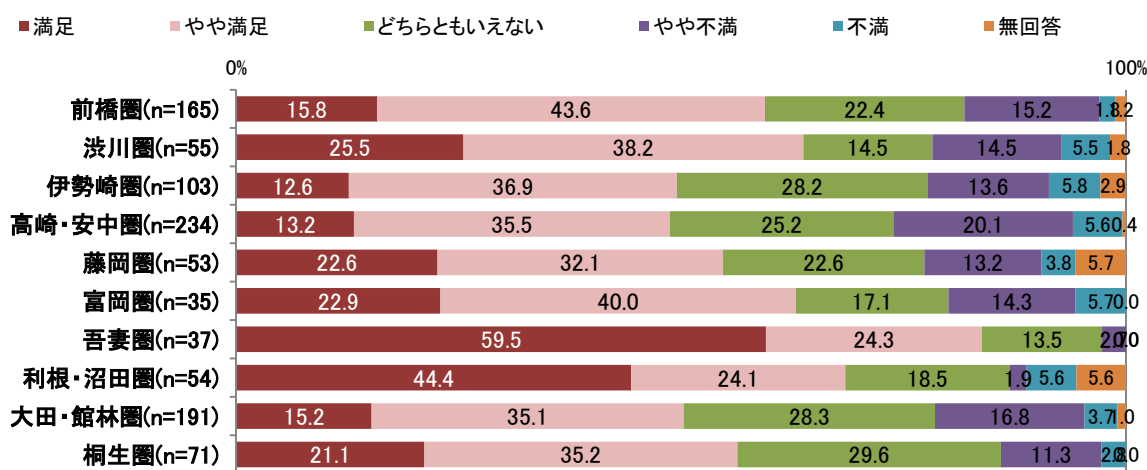
<グラフ32 のんびり歩ける空間 圏域別>



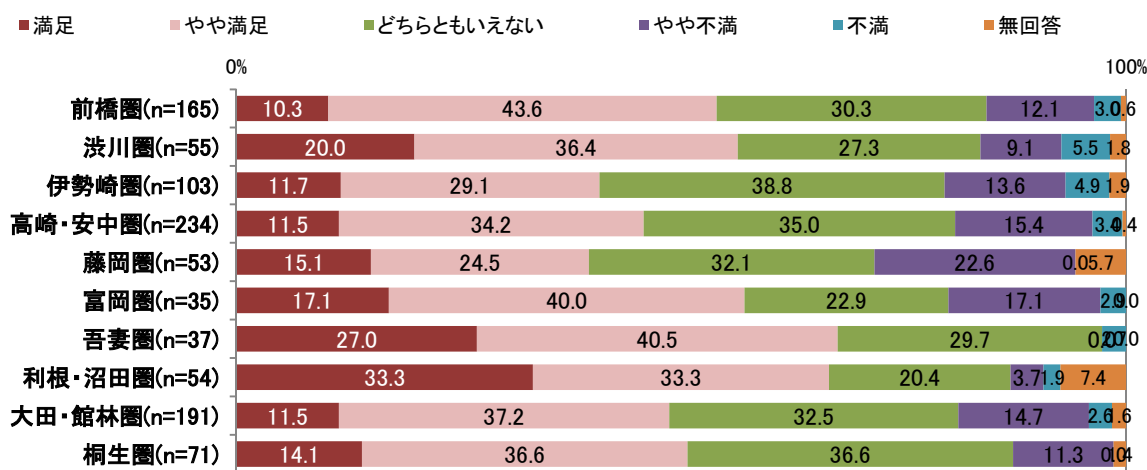
<グラフ33 水道水のおいしさ 圏域別>



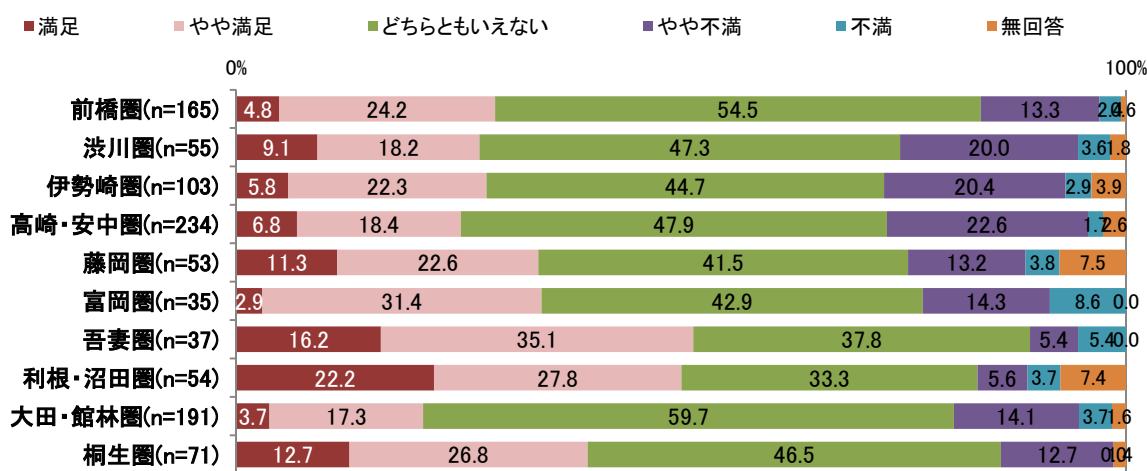
<グラフ34 街並みの美しさ 圏域別>



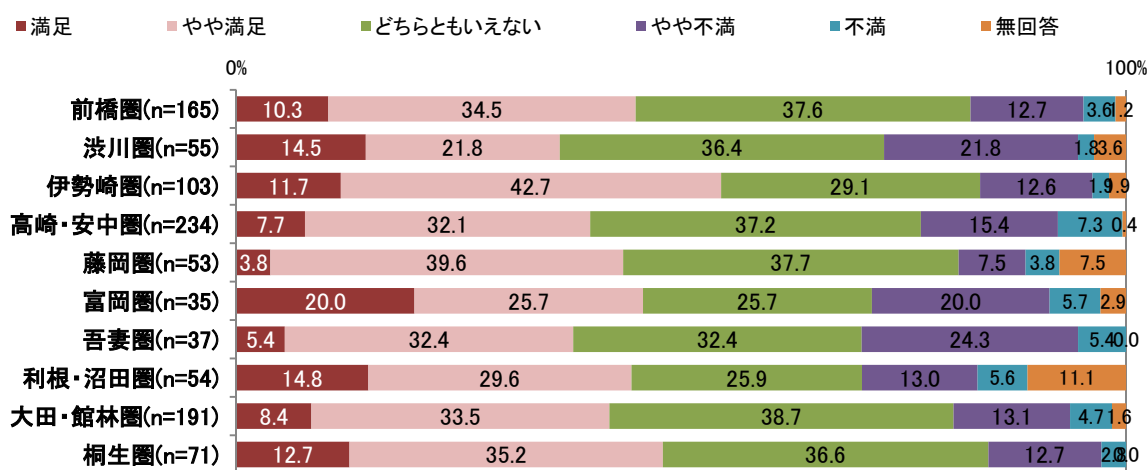
<グラフ35 住まいのまわりの静けさ 圏域別>



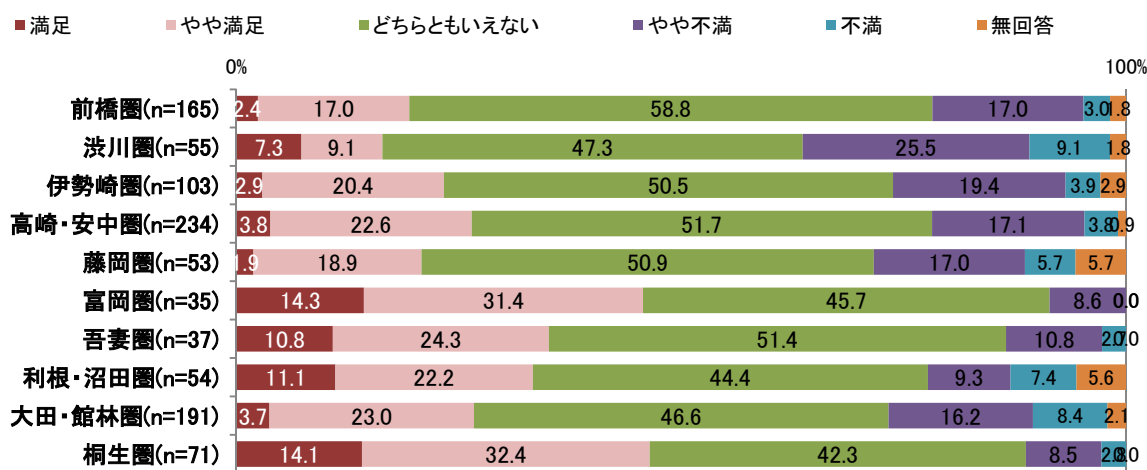
<グラフ36 住まいのまわりの清潔さ 圏域別>



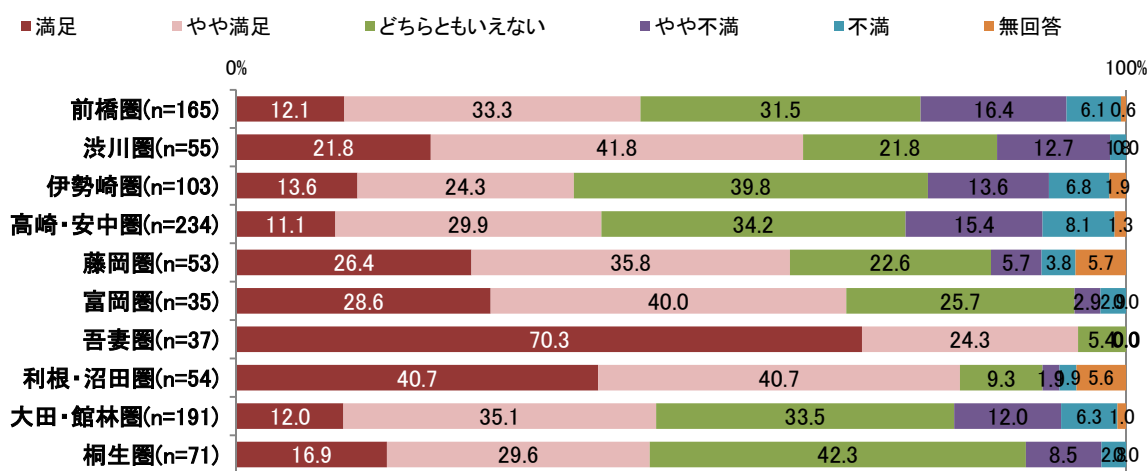
<グラフ37 水や水辺とのふれあい 圏域別>



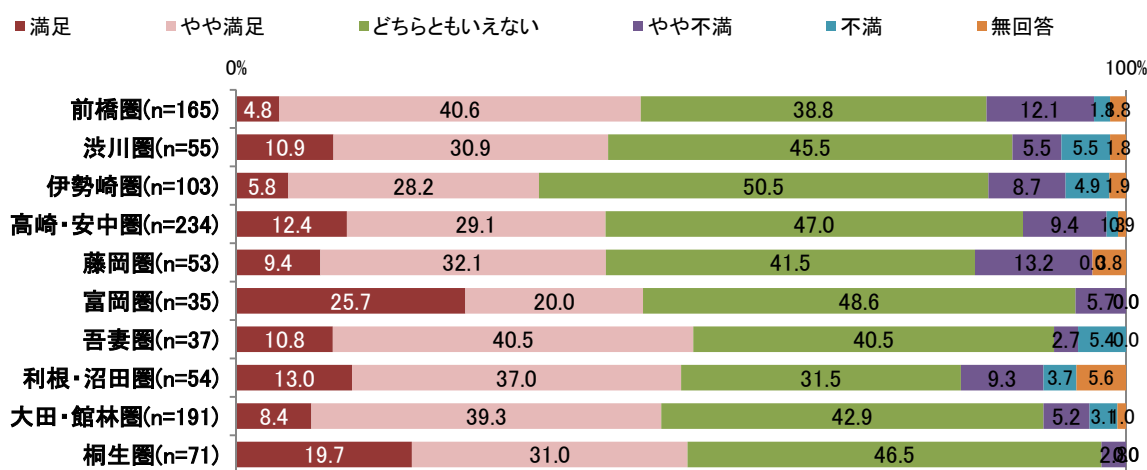
<グラフ38 運動公園や森林公園など 圏域別>



<グラフ39 歴史的・文化的雰囲気 圏域別>



<グラフ40 星空の美しさ 圏域別>



＜グラフ41 安全で安定的なエネルギーの供給 圏域別＞

満足度の高い項目は「日あたり」「緑の豊かさ」「空気のさわやかさ」

満足度の高い項目として「日あたり（77.3%）」、2番目が「緑の豊かさ（70.5%）」、3番目が「空気のさわやかさ（68.0%）」であった。

一方、満足度の低い項目として「歴史的・文化的雰囲気（50.5%）」、2番目が「街並みの美しさ（51.2%）」、3番目が「水や水辺とのふれあい（52.6%）」であった。

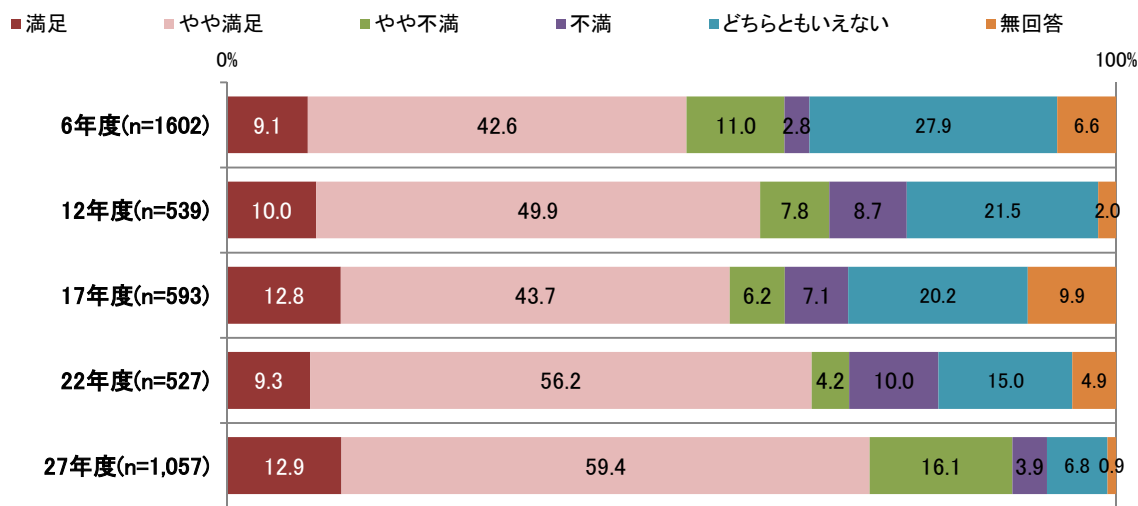
また、特に満足度の高かった3項目に関して、満足度の割合の圏域別傾向をみると、「日あたり」に関しては、1番目が「桐生圏（90.1%）」、2番目が「吾妻圏（89.2%）」、3番目が「利根・沼田圏（88.9%）」、「緑の豊かさ」に関しては、1番目が「吾妻圏（94.6%）」、2番目が「利根・沼田圏（90.8%）」、3番目が「富岡圏（82.9%）」、「空気のさわやかさ」に関しては、1番目が「吾妻圏（91.9%）」、2番目が「富岡圏（82.9%）」、3番目が「利根・沼田圏（81.5%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「満足度の低い項目」以外の割合は、「満足」と「やや満足」の割合を合算して算出。

3.3.2 身のまわりの生活環境全般の満足度

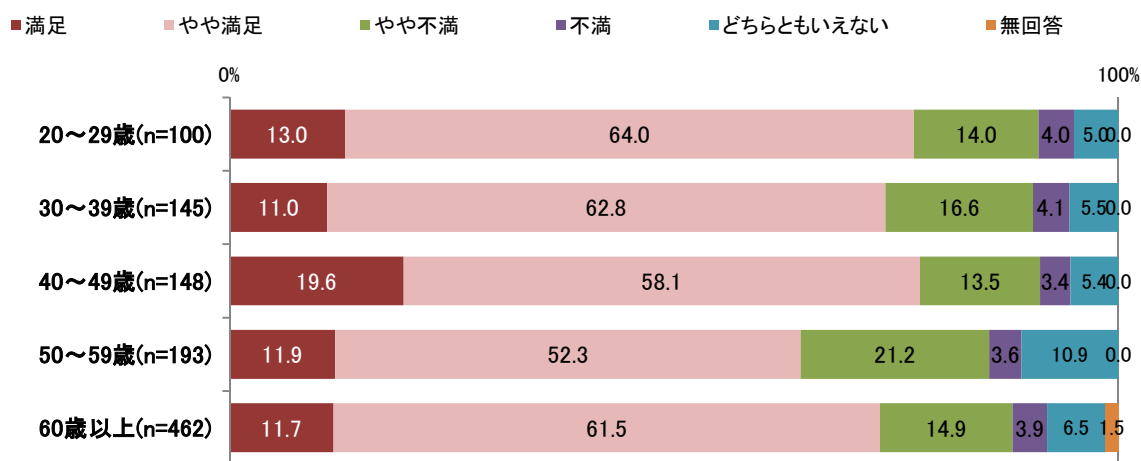
(2) あなたは、身のまわりの生活環境全般に満足していますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(1) 経年推移



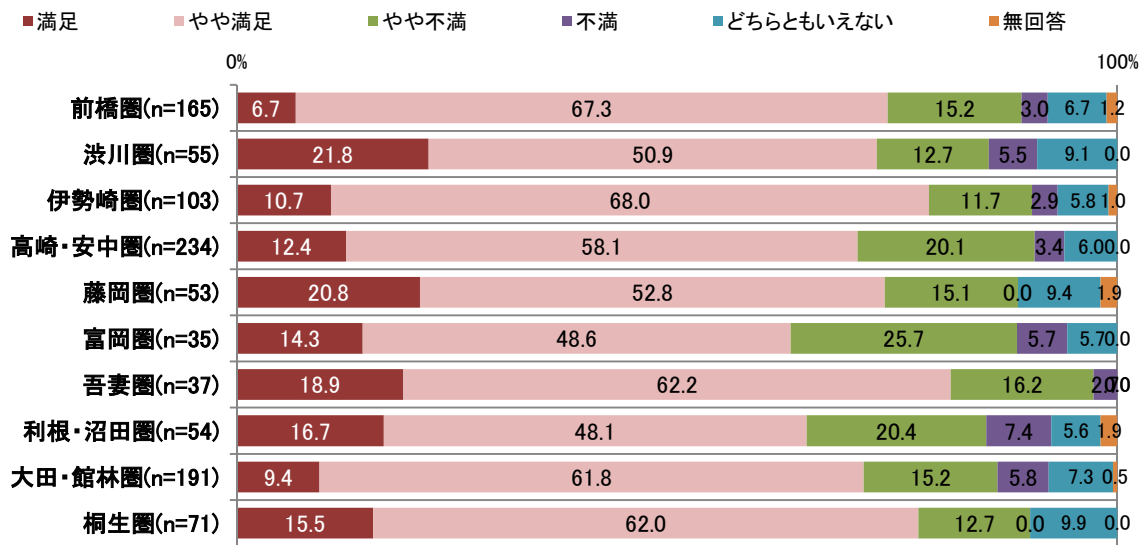
<グラフ42 生活環境全般の満足度 経年推移>

(2) 年代別傾向



<グラフ43 生活環境全般の満足度 年代別>

(3) 圏域別傾向



<グラフ44 生活環境全般の満足度 圏域別>

生活環境全般については約7割が「満足」

身のまわりの生活環境全般については、「満足（72.3%）」と感じている割合が増加傾向にあった。

年代別傾向をみると、各年代の6割以上が「満足」と感じているが、50代においては「満足」の割合が他の年代と比べて特に低かった。

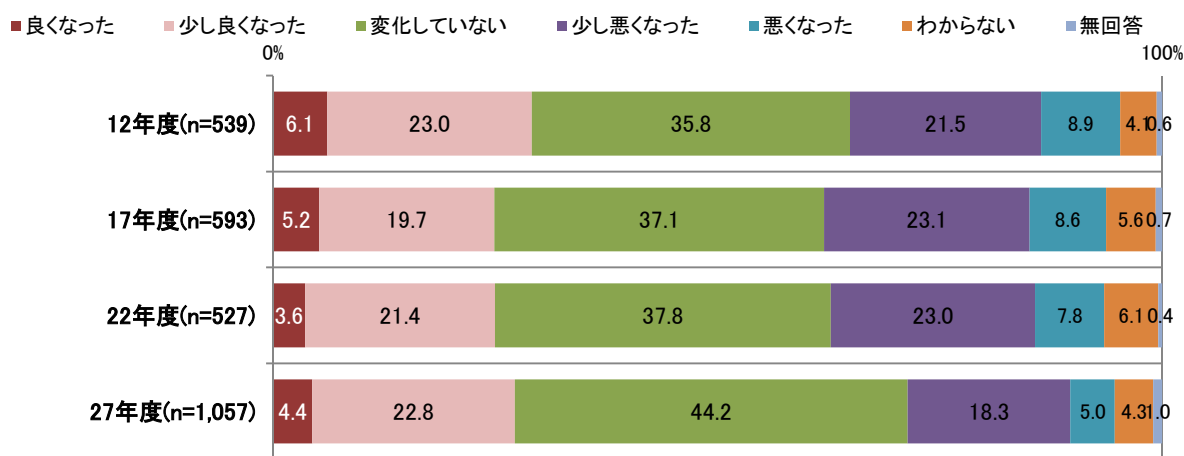
圏域別傾向をみると、「満足」の割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏（81.1%）」、2番目が「伊勢崎圏（78.7%）」、3番目が「桐生圏（77.5%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「満足」は、「満足」と「やや満足」の割合を合算して算出。

3.3.3 身のまわりの環境の5、6年前との変化

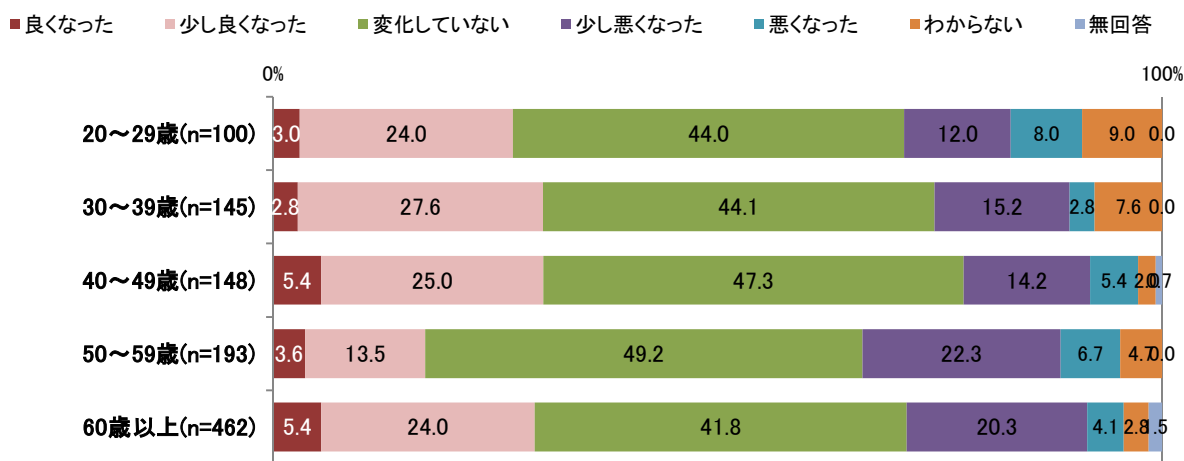
問3 (1) あなたの身のまわりの環境は、全体的に5、6年前と比べて、どのように変化していると思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○は1つ)

(1) 経年推移



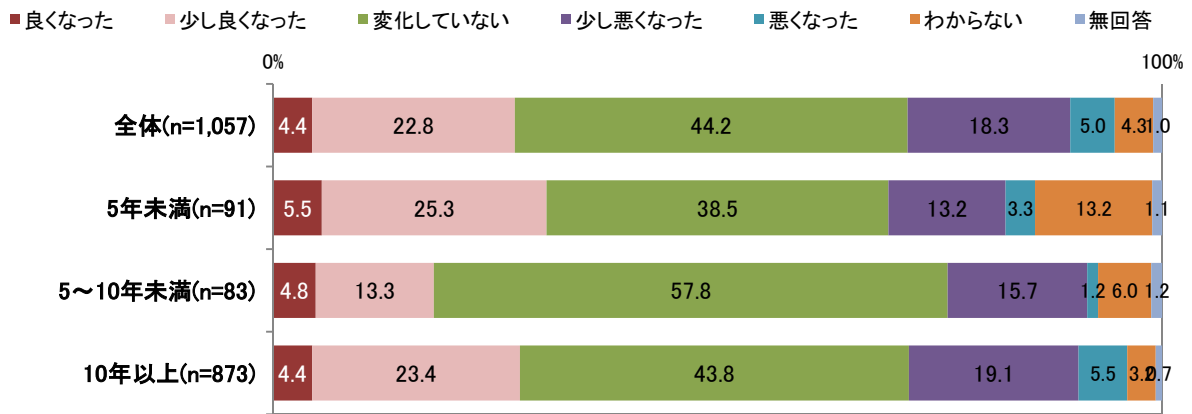
<グラフ45 身のまわりの環境の変化 経年推移>

(2) 年代別傾向



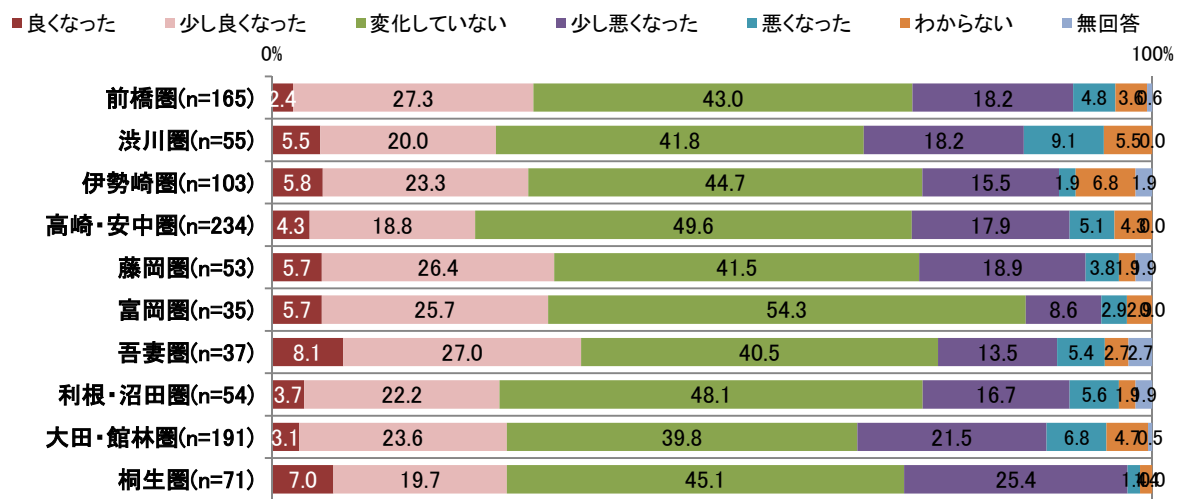
<グラフ46 身のまわりの環境の変化 年代別>

(3) 居住年数別傾向



<グラフ47 身のまわりの環境の変化 居住年数別>

(4) 圏域別傾向



<グラフ48 身のまわりの環境の変化 圏域別>

身のまわりの環境は「良くなった」

今回の調査では、「良くなった」が27.2%であり、一方で「悪くなった」は23.3%であった。年代別傾向をみると、50歳代以外は「良くなった」と感じている結果であった。

居住年数別にみると、「良くなった」と感じている割合が5～10年未満は、18.1%と低い結果であった。

圏域別傾向をみると、「良くなった」と感じている割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏(35.1%)」、2番目が「藤岡圏(32.1%)」、3番目が「富岡圏(31.4%)」であることがわかった。

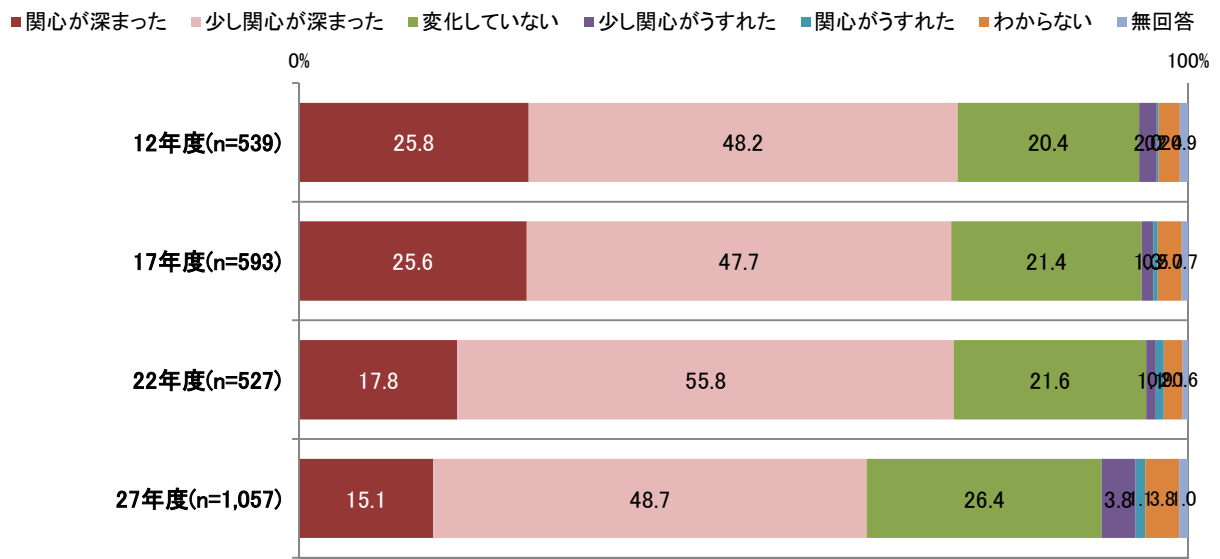
※ 上記文章中の「良くなった」は、「良くなった」と「少し良くなった」の割合を合算して算出。「悪くなった」は、「悪くなった」と「少し悪くなった」の割合を合算して算出。

3.3.4 5、6年前と比較した意識・行動の変化

(2) あなた自身の環境に対する意識や行動は、5、6年前と比べて、どのように変化していると思いますか。《意識》《行動》のそれぞれから、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。(○は1つずつ)

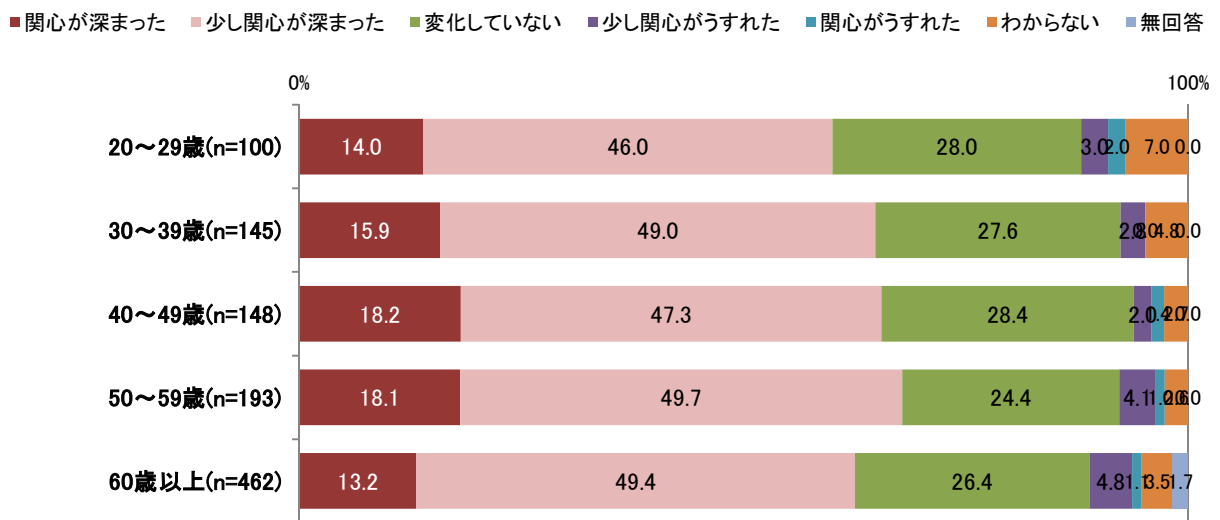
《意識》

(1) 経年推移



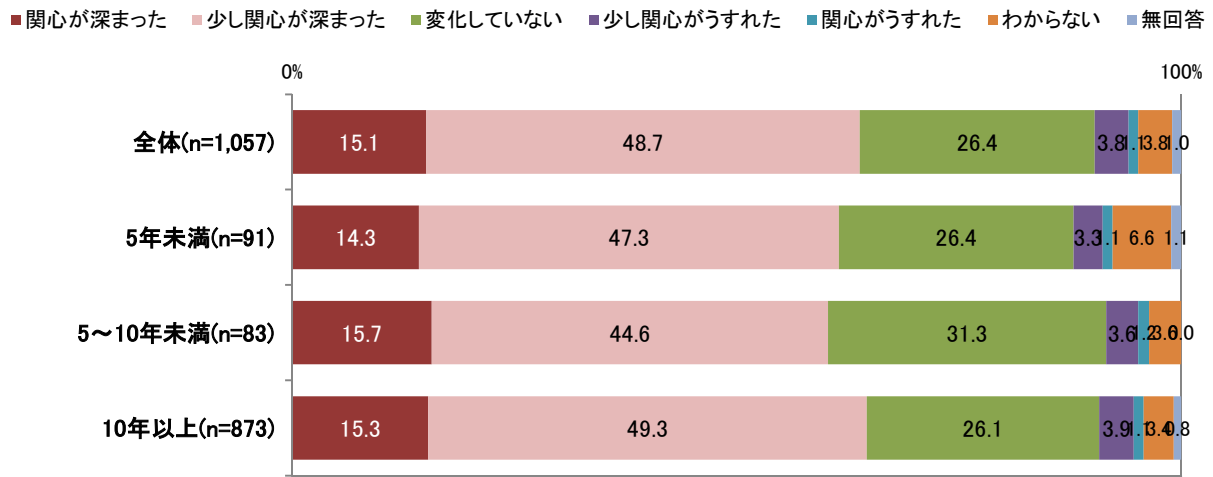
＜グラフ49 環境問題に関する意識の変化 経年推移＞

(2) 年代別傾向



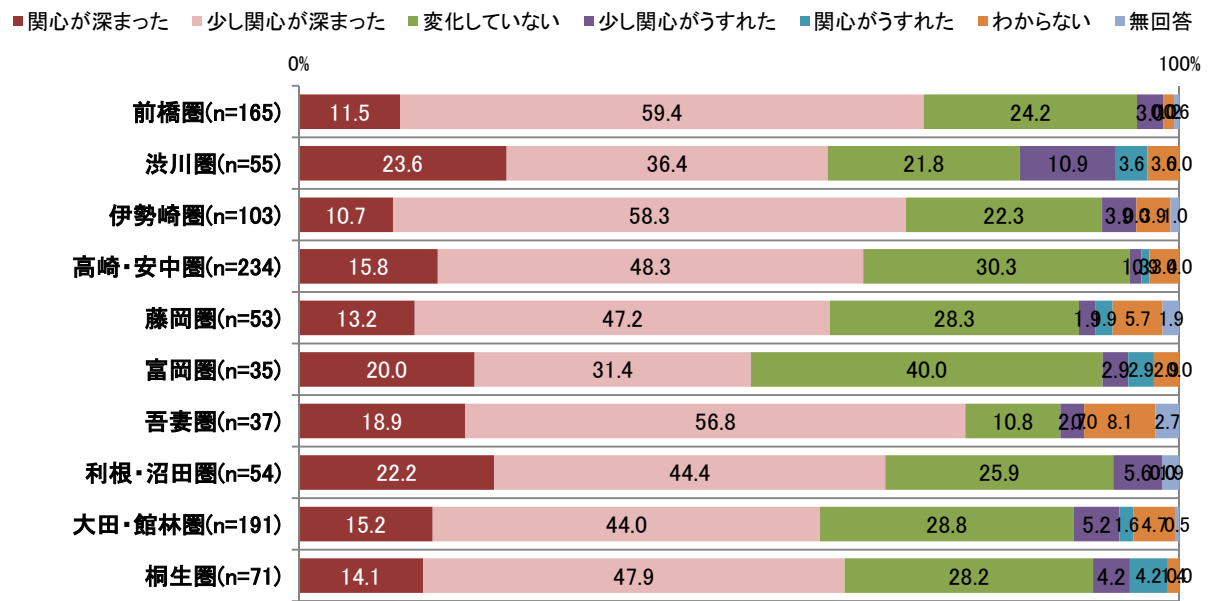
＜グラフ50 環境問題に関する意識の変化 年代別＞

(3) 居住年数別傾向



<グラフ51 環境問題に関する意識の変化 居住年数別>

(4) 圏域別傾向



<グラフ52 環境問題に関する意識の変化 圏域別>

環境に対する意識は「関心がうすれた」

今回の調査では、「関心が深まった」が63.9%であり、一方で「関心がうすれた」は4.9%であった。

平成17年度との比較では、「関心が深まった」が「73.6% → 63.9%」と減少している。

一方、「関心がうすれた」が「2.0% → 4.9%」と増加している。

年代別傾向をみると、各年代の6割以上が「関心が深まった」と回答しているが、50代（67.8%）で最も高かった。

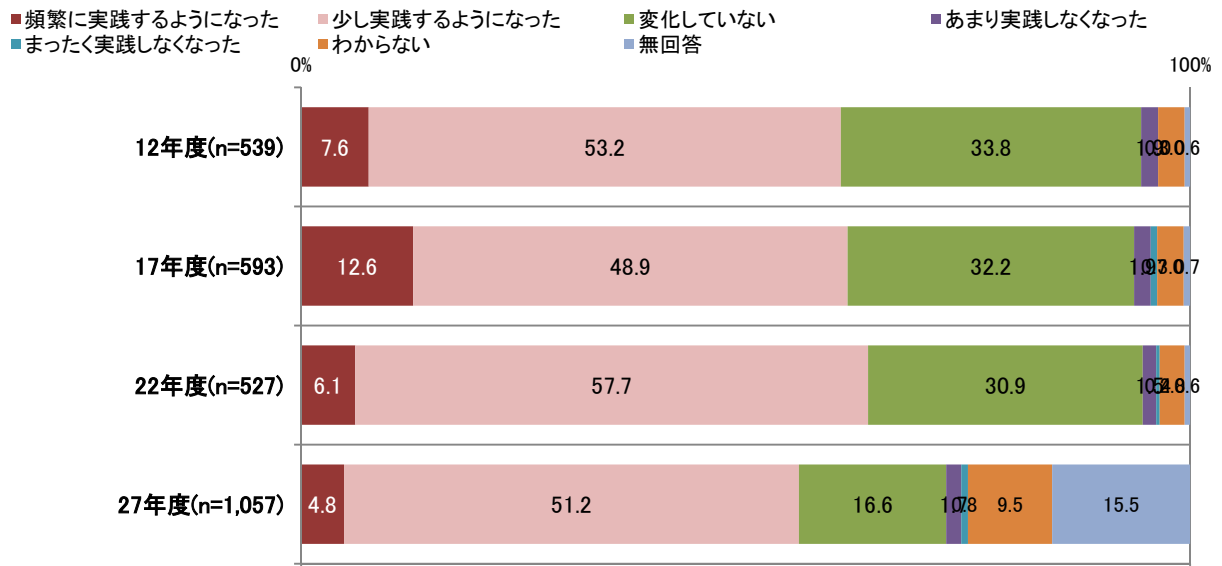
居住年数別にみると、「関心が深まった」の割合は、ほとんど差がない。

圏域別傾向をみると、「関心が深まった」と感じている割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏（75.7%）」、2番目が「前橋圏（70.9%）」、3番目が「伊勢崎圏（69.0%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「関心が深まった」は、「関心が深まった」と「少し関心が深まった」の割合を合算して算出。「関心がうすれた」は、「関心がうすれた」と「少し関心がうすれた」の割合を合算して算出。

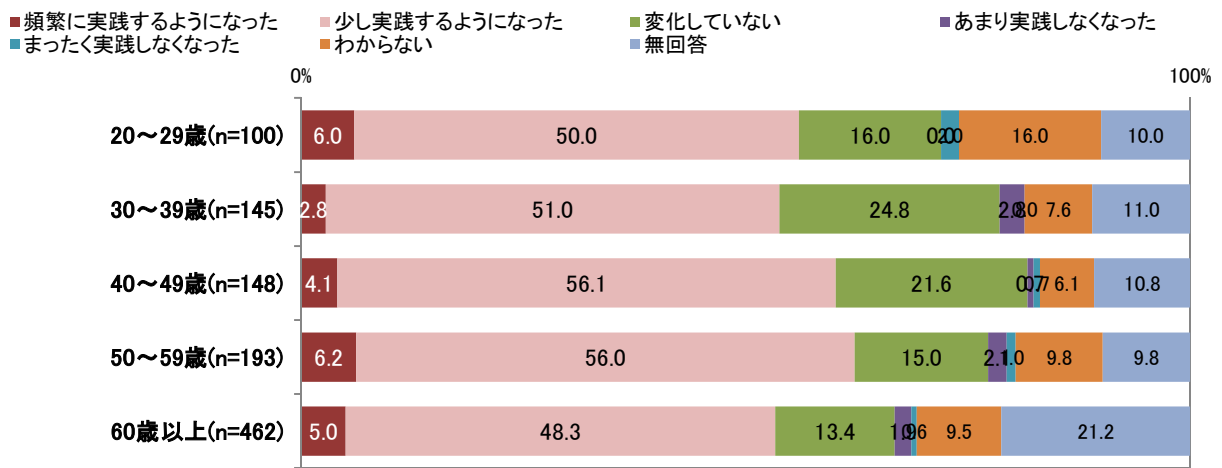
《行動》

(1) 経年推移



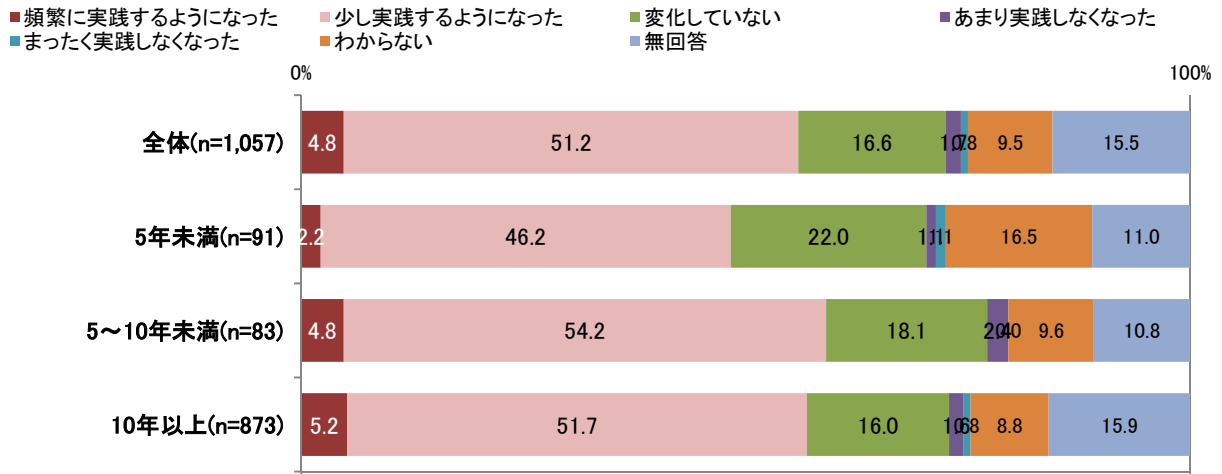
＜グラフ53 環境問題に関する行動の変化 経年推移＞

(2) 年代別傾向



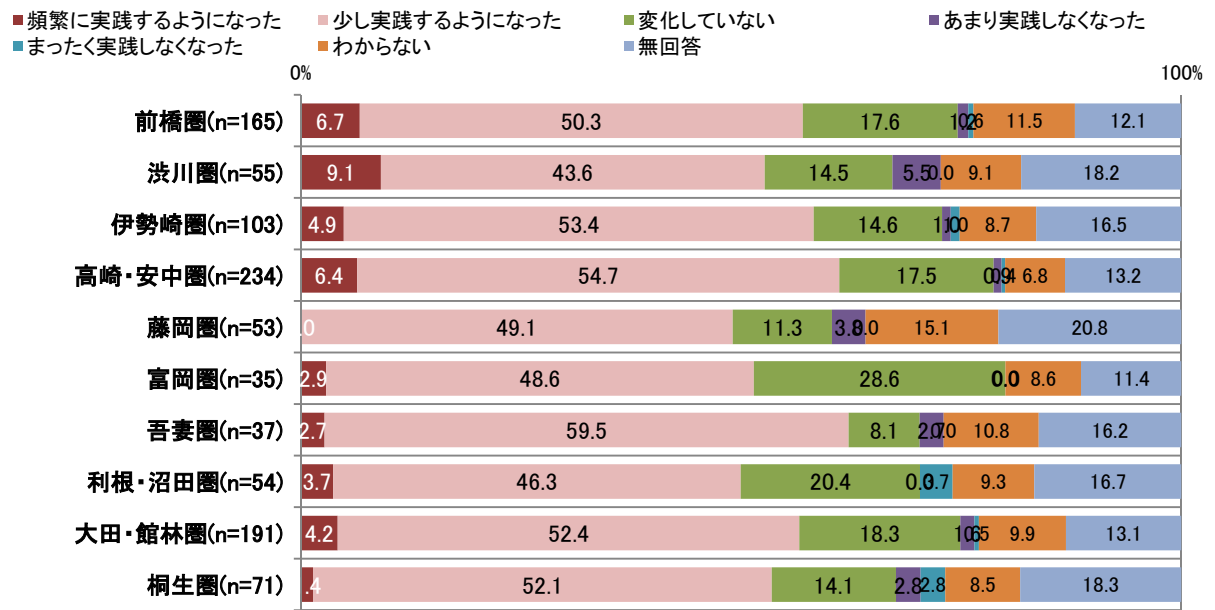
＜グラフ54 環境問題に関する行動の変化 年代別＞

(3) 居住年数別傾向



<グラフ55 環境問題に関する行動の変化 居住年数別>

(4) 圏域別傾向



<グラフ56 環境問題に関する行動の変化 圏域別>

5割以上が「実践するようになった」

今回の調査では、「実践するようになった」が56.0%であり、一方で「実践しなくなった」は2.5%であった。

平成17年度との比較では、「実践するようになった」が「63.8% → 56.0%」と減少している。

一方、「実践しなくなった」が「1.9% → 2.5%」と増加している。

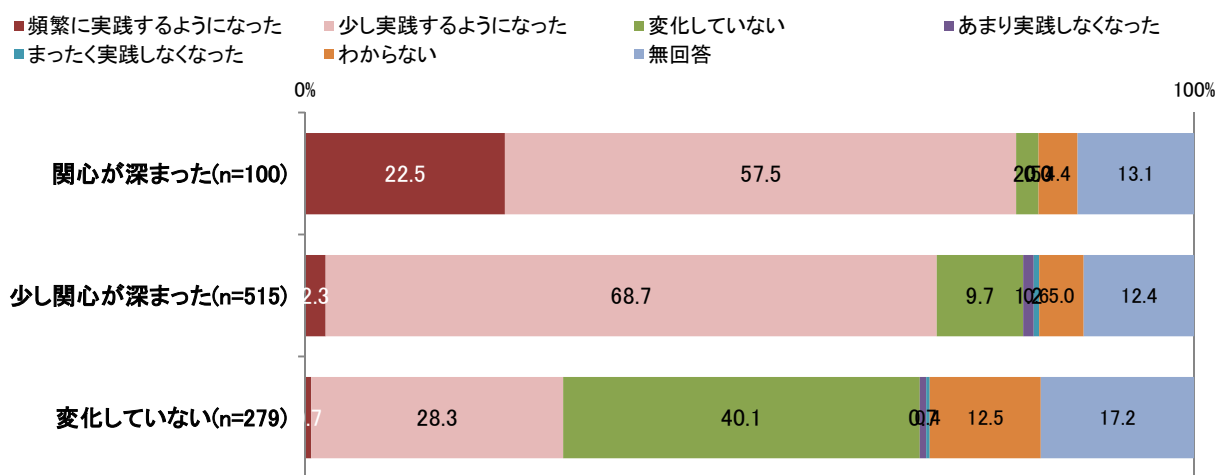
年代別傾向をみると、「実践するようになった」が50～59歳と40～49歳が60%以上だった。

居住年数別にみると、「実践するようになった」の割合が5年未満は、48.4%と低い結果であった。

圏域別傾向をみると、「実践するようになった」と感じている割合が高かったのは、1番目が「吾妻圏（62.2%）」、2番目が「高崎・安中橋圏（61.1%）」、3番目が「伊勢崎圏（58.3%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「実践するようになった」は、「頻繁に実践するようになった」と「少し実践するようになった」の割合を合算して算出。「実践しなくなった」は、「まったく実践しなくなった」と「あまり実践しなくなった」の割合を合算して算出。

(5)意識の変化による、行動の変化



＜グラフ57 環境問題に関する意識の変化による行動の変化＞

関心が深まるほど、環境を考えての行動を実践

環境問題に「関心が深まった」と回答した県民のうち、22.5%が「頻繁に実践するようになった」と回答し、57.5%が「少し実践するようになった」と回答した。

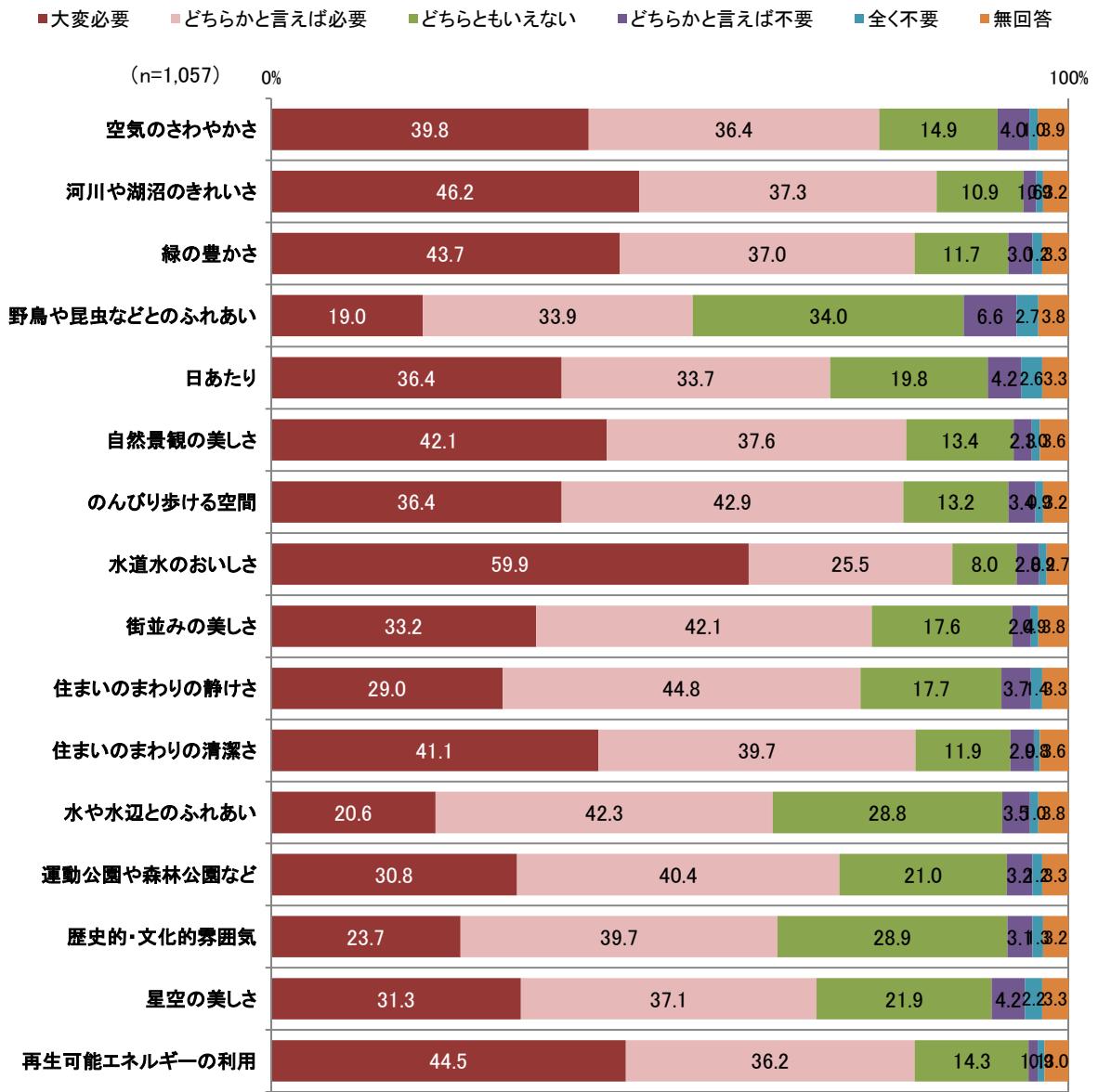
また、「少し関心が深まった」と回答した県民のうち、2.3%が「頻繁に実践するようになった」と回答し、68.7%が「少し実践するようになった」と回答した。

※ 上記文章中の「関心が深まった」は、「関心が深まった」と「少し関心が深まった」の割合を合算して算出。

3.3.5 快適環境確保のために県に求められる取組

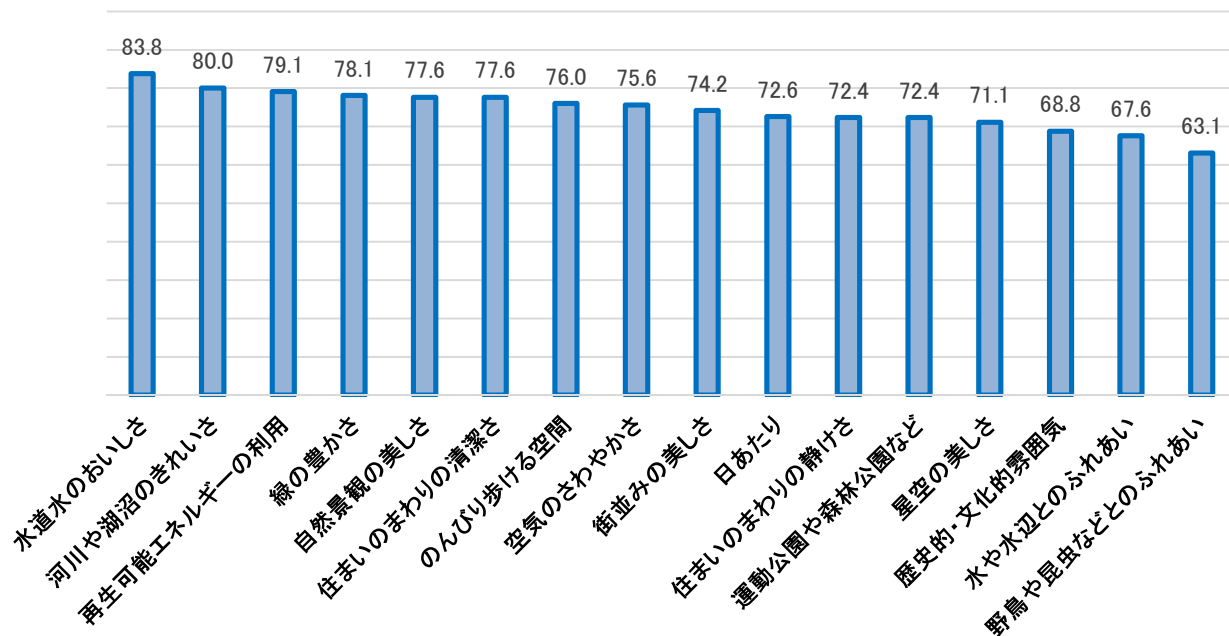
問4 あなたは、快適で住みよい環境を確保していくために、県としてどのような取組をしていくことが必要と思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

(1) 今年度の傾向

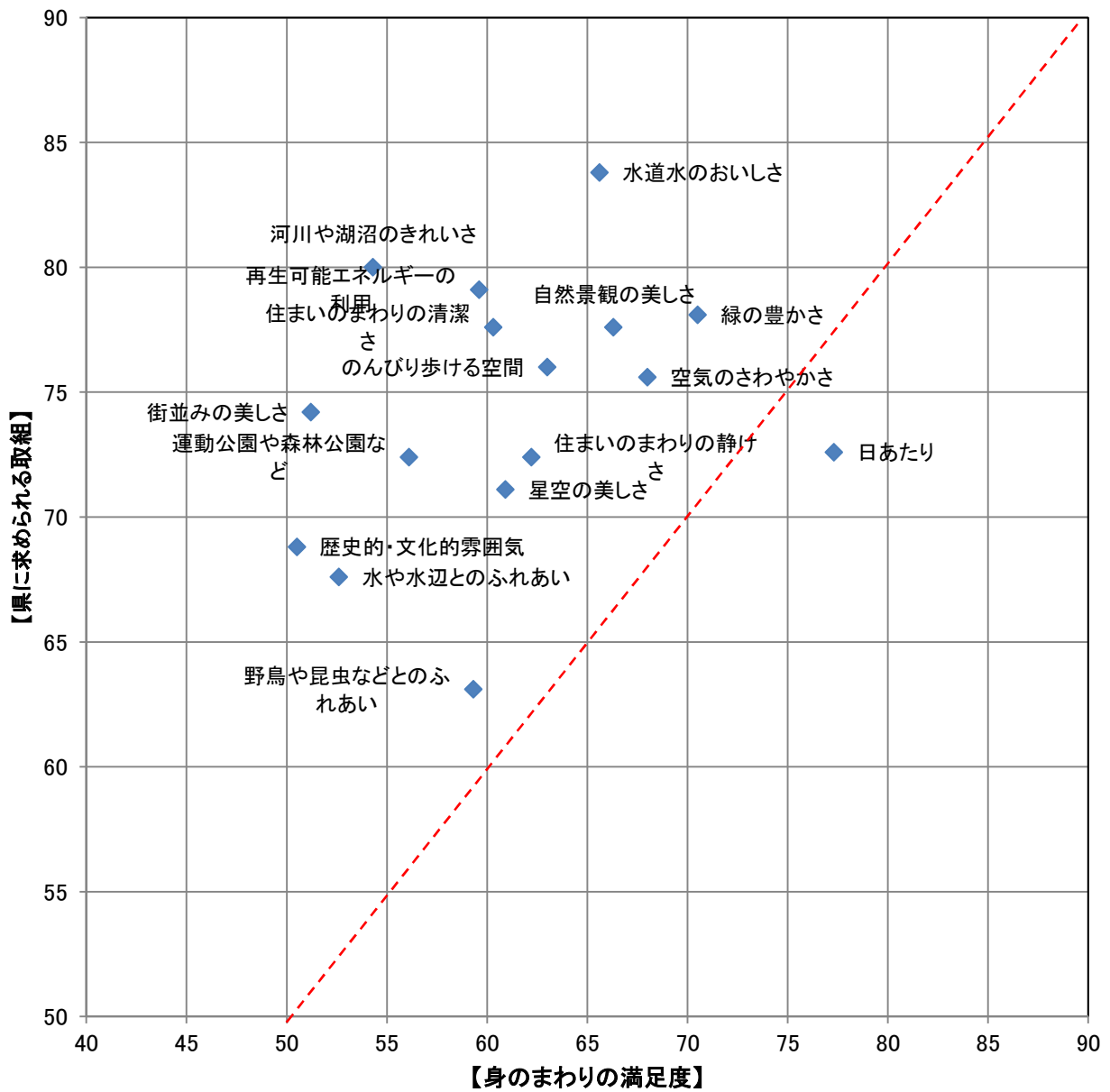


<グラフ58 県に求められる取組>

本設問では、「大変必要」=100点、「どちらかと言えば必要」=75点、「どちらともいえない」=50点、「どちらかと言えば不要」=25点、「全く不要」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移を見た。

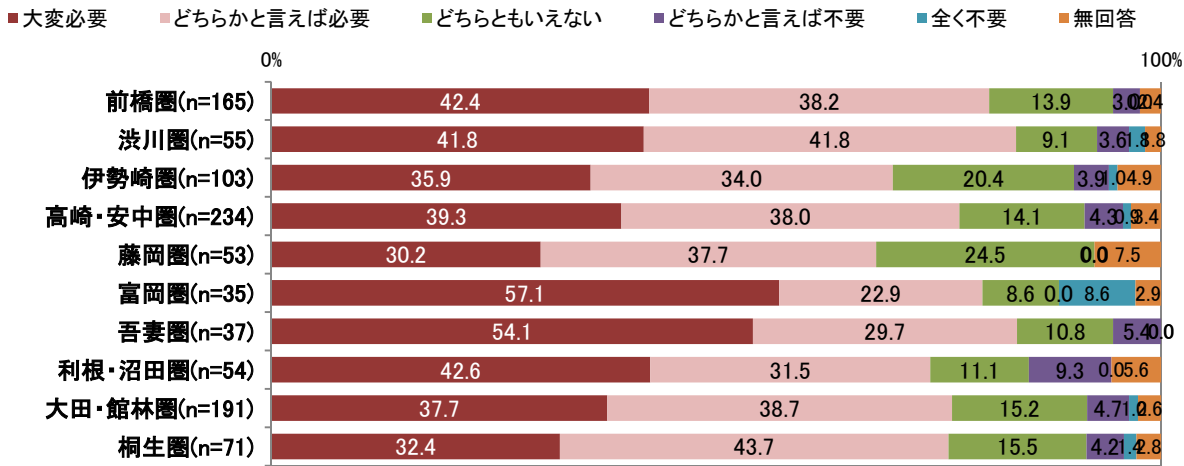


<グラフ59 県に求められる取組 加重平均>

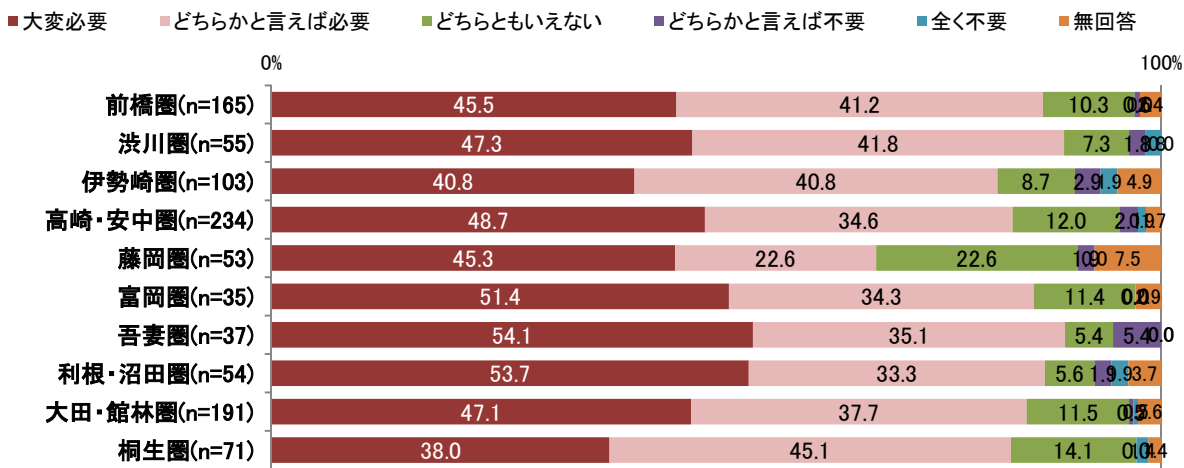


<グラフ60 「身のまわりの満足度」－「県に求められる取組」の相関>

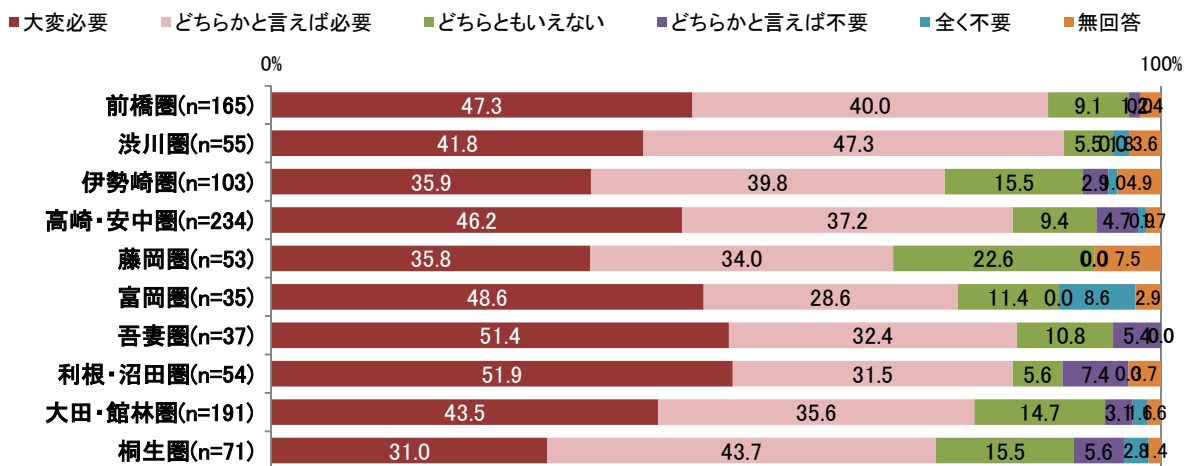
(2) 圏域別傾向



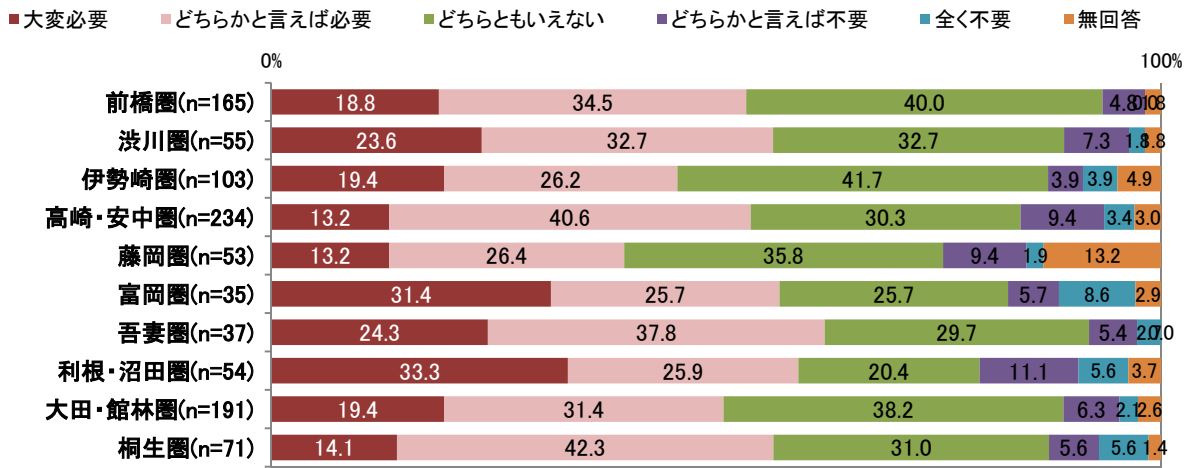
<グラフ61 空気のさわやかさ 圏域別>



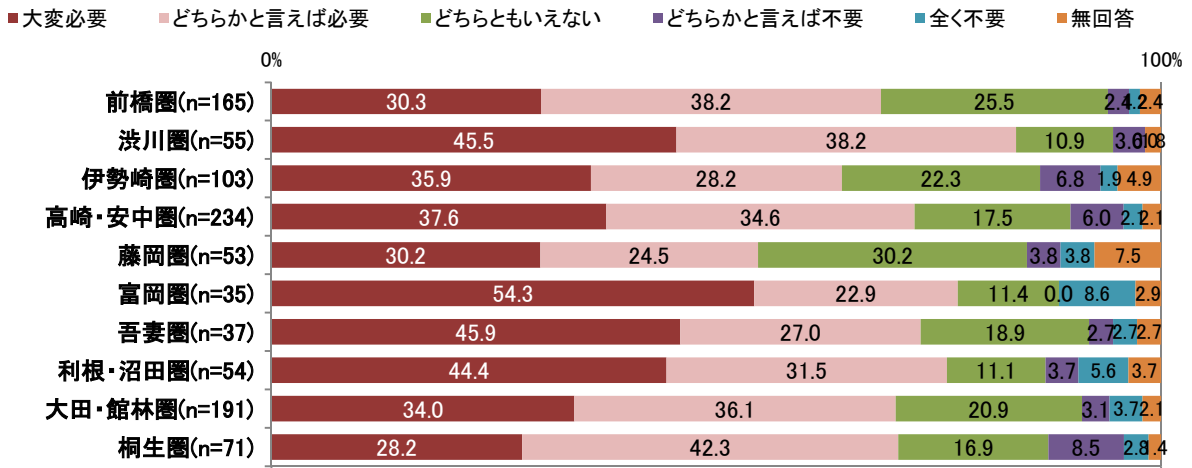
<グラフ62 河川や湖沼のきれいさ 圏域別>



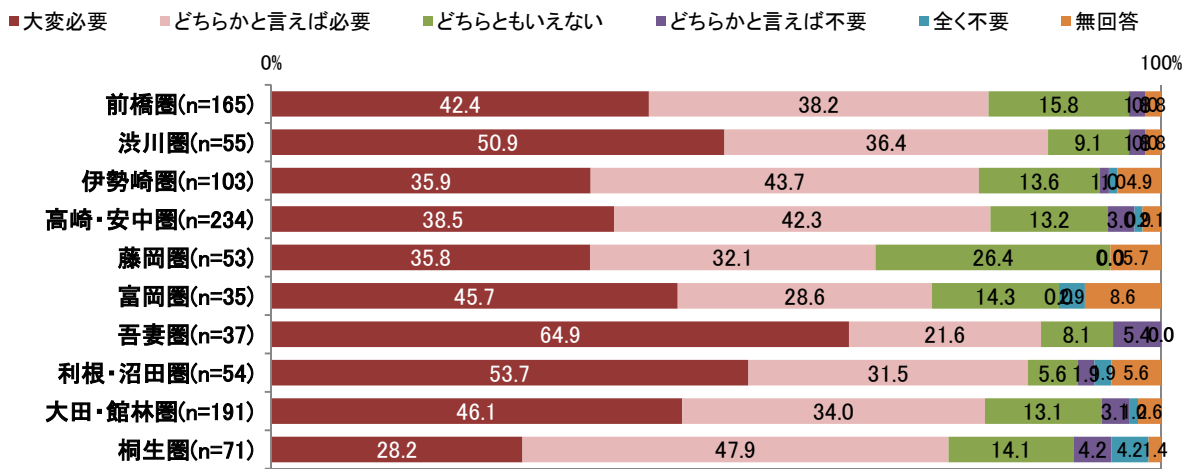
<グラフ63 緑の豊かさ 圏域別>



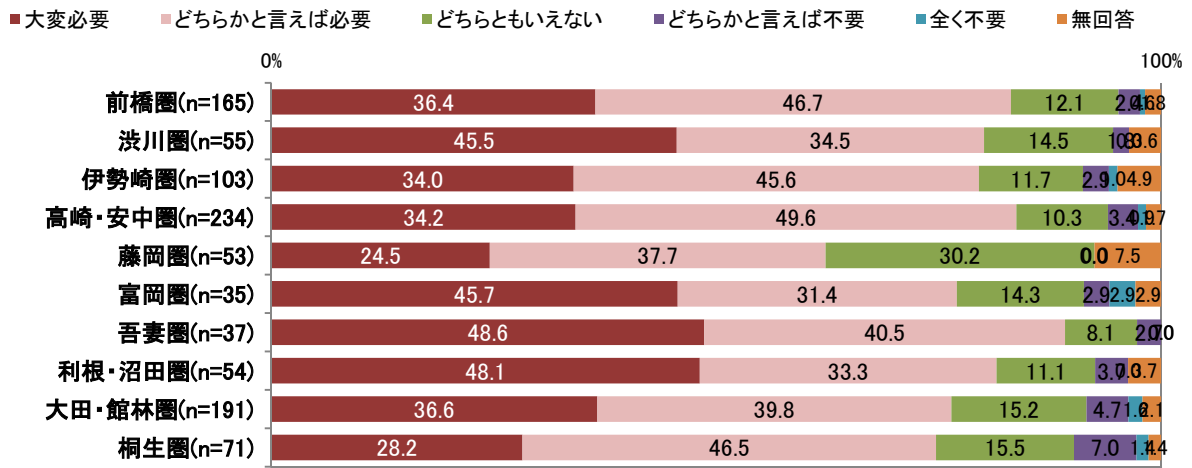
<グラフ64 野鳥や昆虫などのふれあい 圏域別>



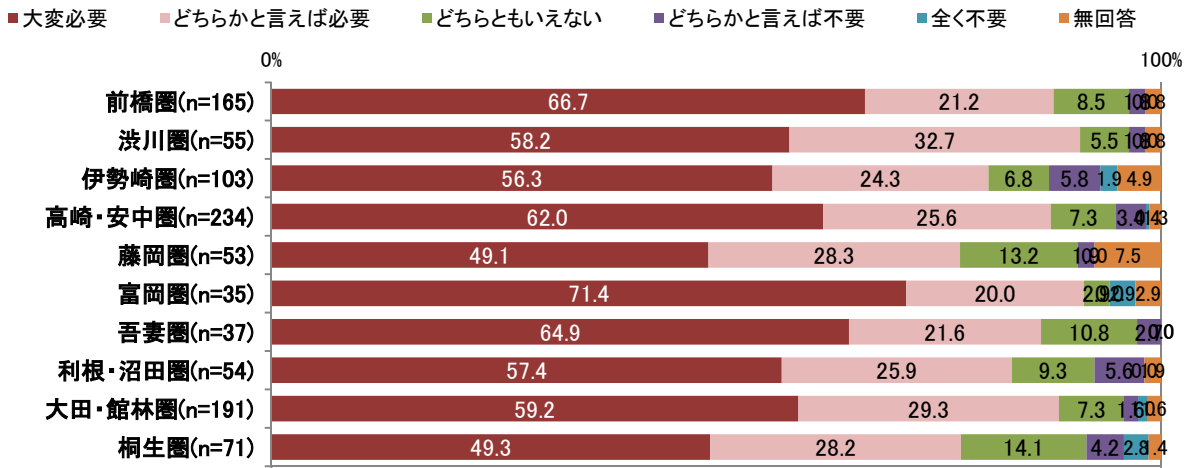
<グラフ65 日あたり 圏域別>



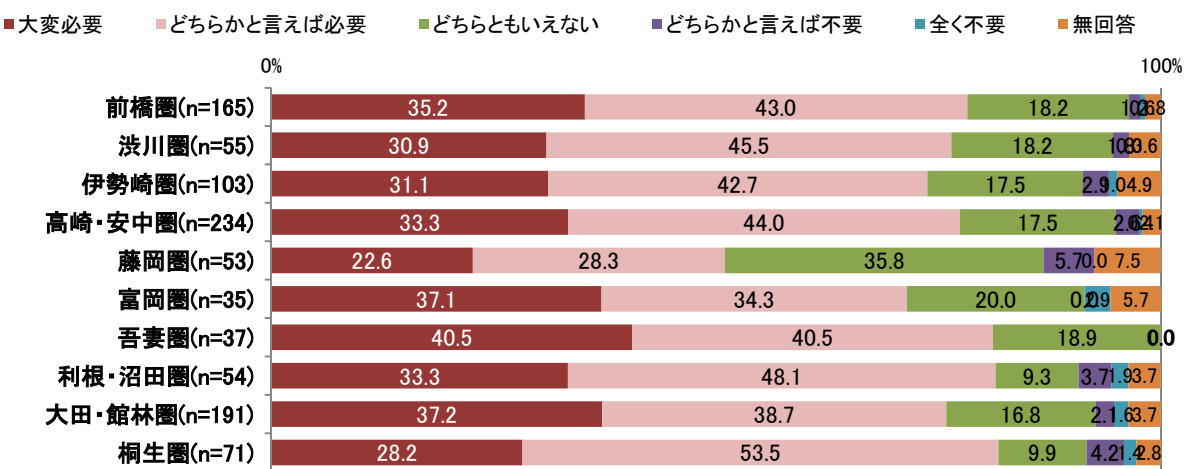
<グラフ66 自然景観の美しさ 圏域別>



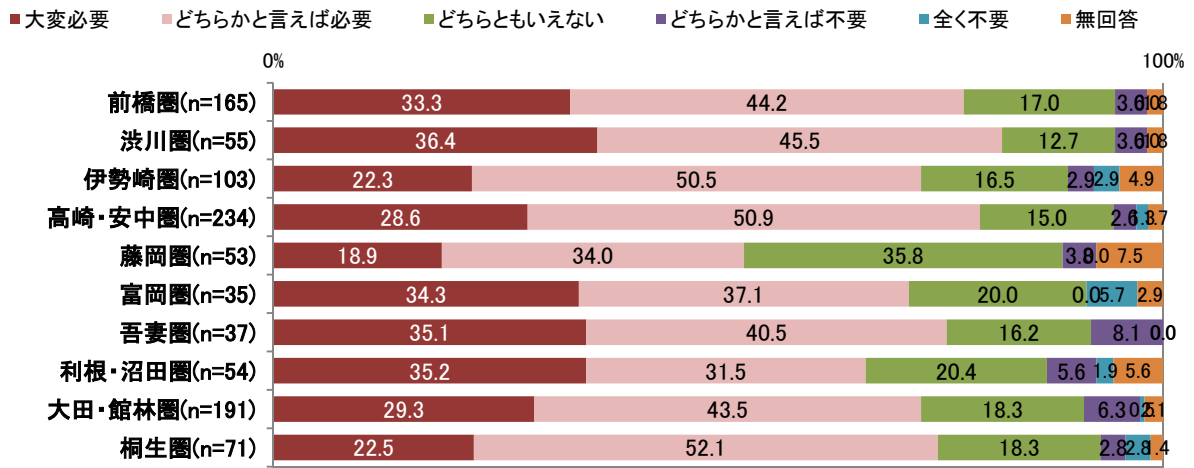
<グラフ67 のんびり歩ける空間 圏域別>



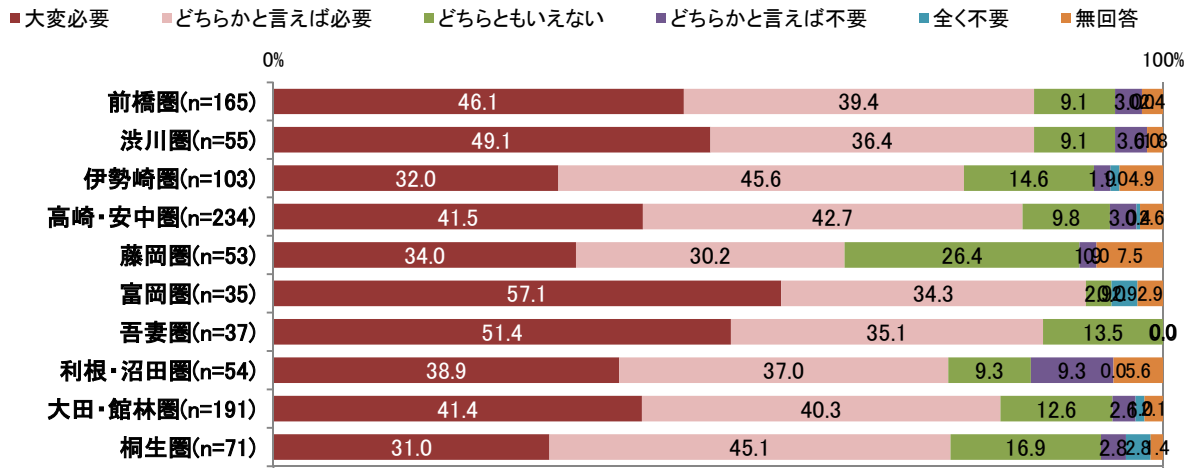
<グラフ68 水道水のおいしさ 圏域別>



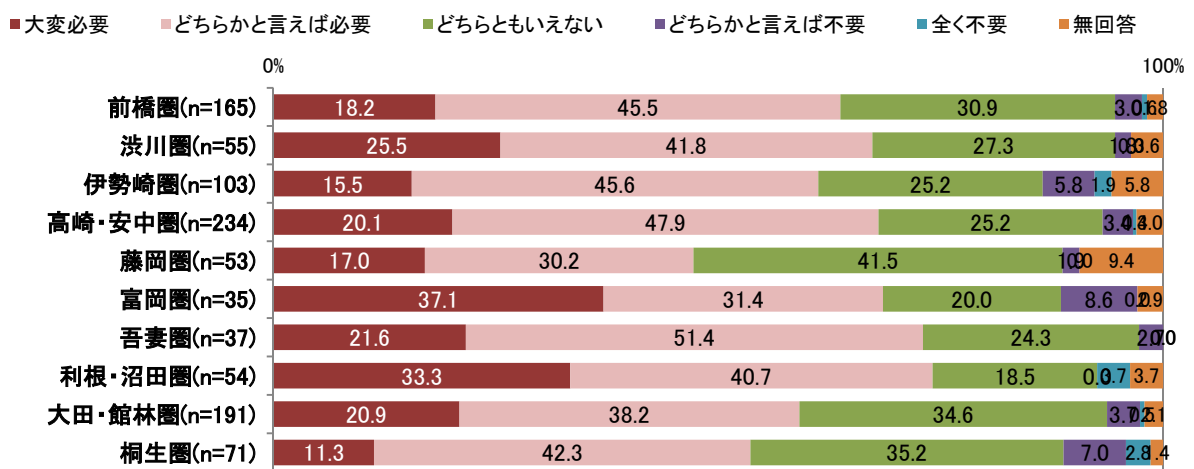
<グラフ69 街並みの美しさ 圏域別>



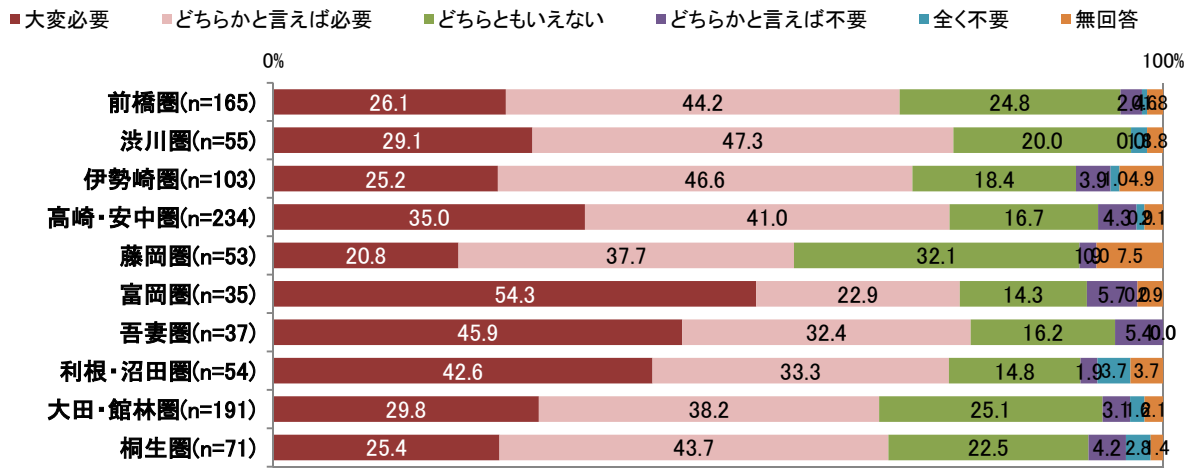
<グラフ70 住まいのまわりの静けさ 圏域別>



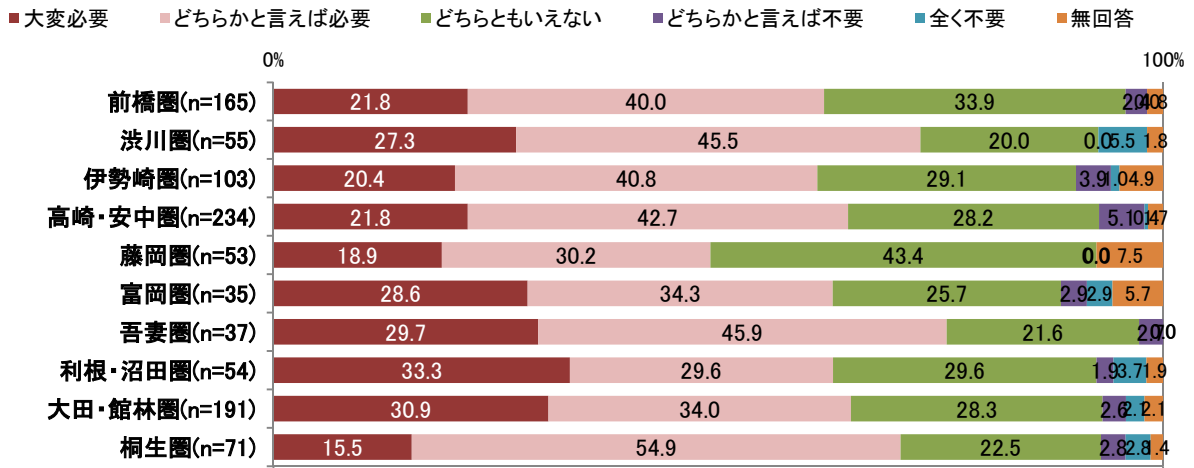
<グラフ71 住まいのまわりの清潔さ 圏域別>



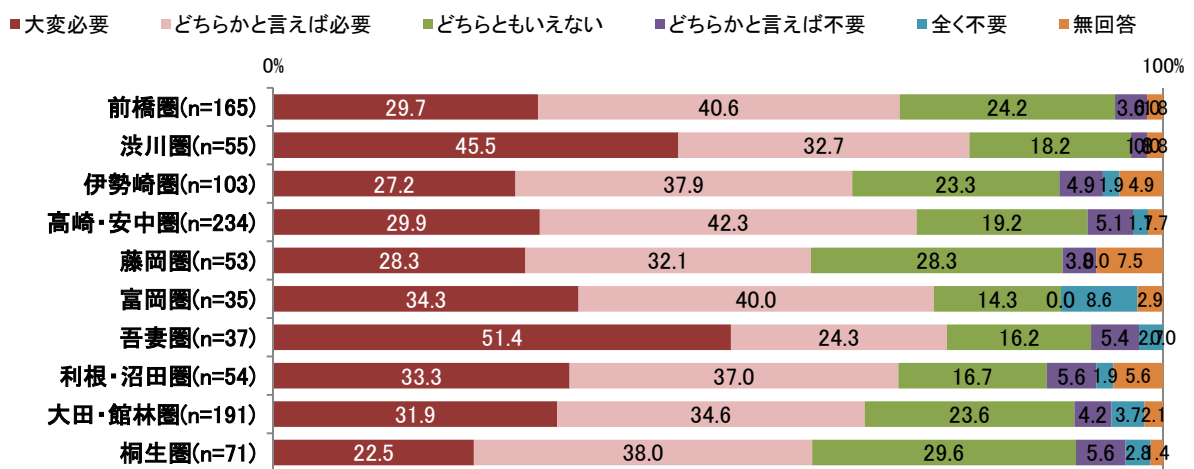
<グラフ72 水や水辺とのふれあい 圏域別>



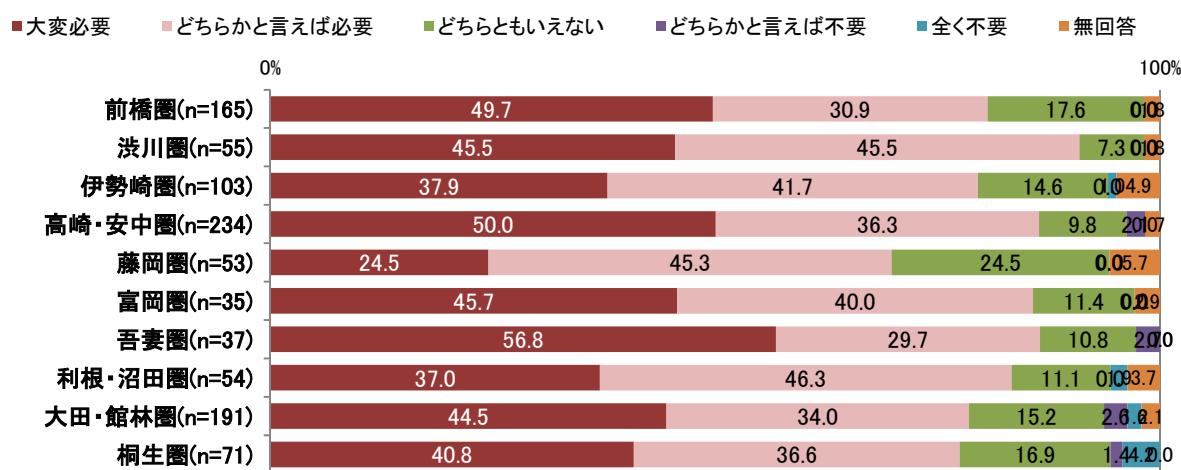
<グラフ73 運動公園や森林公園など 圏域別>



<グラフ74 歴史的・文化的雰囲気 圏域別>



<グラフ75 星空の美しさ 圏域別>



＜グラフ76 再生可能エネルギーの利用 圏域別＞

県に求められる取組の必要度の高い項目は「水道水のおいしさ」「河川や湖沼のきれいさ」「住まいのまわりの清潔さ」

県に求められる取組の必要度の高い項目として「水道水のおいしさ（85.4%）」、2番目が「河川や湖沼のきれいさ（83.4%）」、3番目が「住まいのまわりの清潔さ（80.8%）」であった。

一方、県に求められる取組の必要度の低い項目として「野鳥や昆虫などとのふれあい（9.4%）」、2番目が「日あたり（6.8%）」、3番目が「星空の美しさ（6.3%）」であった。

また、満足度と取組の相関をみると、満足度が低く、かつ必要性が高い項目は「河川や湖沼のきれいさ」、「街並みの美しさ」、「運動公園や森林公園など」であった。

また、特に必要度の高かった3項目に関して、必要度の割合の圏域別傾向をみると、「水道水のおいしさ」に関しては、1番目が「富岡圏（91.4%）」、2番目が「渋川圏（90.9%）」、3番目が「大田・館林圏（88.5%）」、「河川や湖沼のきれいさ」に関しては、1番目が「吾妻圏（89.2%）」、2番目が「渋川圏（89.1%）」、3番目が「利根・沼田圏（87.0%）」、「住まいのまわりの清潔さ」に関しては、1番目が「富岡圏（91.4%）」、2番目が「吾妻圏（86.5%）」、3番目が「前橋圏（85.5%）」、「渋川圏（85.5%）」であることがわかった。

※ 上記文章中の「必要度の高い」は、「大変必要」と「どちらかと言えば必要」の割合を合算して算出。「必要度の低い」は、「全く不要」と「どちらかと言えば不要」の割合を合算して算出。